

ヲ給セス

三 食卓料ハ官用ノ船舶ニテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ夜數ニ應シ之ヲ給ス

四 旅籠料ハ食數及夜數ニ應シ之ヲ給ス

五 日當、旅次手當、滯在手當ハ日數ニ應シ之ヲ給ス但シ日當ハ陸路六里未滿、鐵道ハ八里、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做スノ旅行ノトキハ公務ノ都合ニ依リ宿泊セシメタル場合ヲ除クノ外半額ヲ給ス

六 移轉料中ノ雜費、支度料及演習手當ハ旅行ノ回數ニ應シ之ヲ給ス

七 旅費ノ定額ヲ異ニスル場合同日ニ生シタルトキハ其ノ多額ニ就キ之ヲ給ス

第十條 旅費ノ定額中、鐵道賃、船賃、車馬賃ハ用務ノ性質又ハ地方ノ狀況ニ依リ當該定額ヲ以テ支辨シ難キ場合ニ限リ所屬長官ハ旅行ノ全部若ハ一部ニ對シ其ノ實費ヲ給スルコトヲ得

第十一條 旅費ノ定額ハ其ノ全部若ハ一部ノ支給ヲ止メ之ヲ減少シ若ハ定額ノ範圍内ニ於テ特ニ支給額ヲ定ムルコトアルヘシ

第十二條 陸路三里未滿ノ地ニ旅行スルトキハ旅費ヲ給セス出張地滯在中該地ヨリ三里未滿ノ地ニ往復スルト

キ亦同シ

鐵道又ハ水路ニ在リテハ鐵道ハ二哩半、水路ハ二海里ヲ以テ陸路一里ニ改算シ前項ノ路程ヲ定ム

第十三條 同一衛戍地内ニ於ケル左ノ旅行ニ在リテハ三里以上ト雖旅費ヲ給セス

一 陸軍部内ノ軍隊、官衙出張所、派出所、作業場共學校間往復ノトキ

二 赴任又ハ陣營官衙學校移轉ノトキ

第十四條 前二條ノ旅行ト雖所屬長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ左ノ旅費ニ限リ之ヲ給スルコトヲ得

一 鐵道又ハ水路旅行ヲ要スルモノノ鐵道賃若ハ船賃

二 傷疾疾病等ニ依リ歩行セシメ難キ場合ニ於ケル車馬賃

三 公務ノ都合ニ依リ宿泊セシメタル場合ノ日當及宿泊料又ハ旅籠料及演習手當但シ日當ハ宿泊シタル日ニ限ル

第十五條 公務旅行中左ノ場合ニ在リテハ當該旅行地ヨリ舊任地迄旅費ヲ給ス其ノ定額ハ當該公務旅行ノ種類ニ應シ歸聽ノ爲受クヘキ額ニ依ル但シ懲戒又ハ刑罰處分ニ依リ失官免官ノ者ニハ之ヲ給セス

一 准士官以上待命、休職、停職、豫備役、後備役、

- 一 退役ト爲リ又ハ死亡シタルトキ
- 二 營外居住ノ下士兵卒現役滿期、免役、免官ト爲リ又ハ死亡シタルトキ
- 三 文官非職、休職、豫備、退職、退官、免官ト爲リ又ハ死亡シタルトキ

第十六條 私事旅行中公務ニ服セシムルトキハ其ノ用務及旅行ノ種類ニ應シ當該旅費ヲ給ス但シ其ノ旅費額在職地公務旅行地ヨリ私事旅行地ヨリ用務ノ地ニ旅行セシムル額ヨリ超過スル場合ハ該額ニ止ム

第十七條 在職者ニ非サル者ノ旅費定額ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 新ニ任用スルトキハ新官等ノ額
- 二 待命、休職、停職、豫備役、後備役、退役、免役、豫備、退職、退官、免官ノトキハ本官アル者ハ現官等、本官ナキ者ハ前官等ノ額
- 三 死亡者ニ係ル旅費ハ死亡當時ニ於ケル官等ノ額
- 四 在職中ノ用務ニ關シ在職セサル者ヲ旅行セシムルトキハ本官アル者ハ現官等、本官ナキ者ハ前官等ノ額

第十八條 旅費ノ計算及年度所屬ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外左ノ區分ニ依ル

- 一 路程ノ基點ハ陸路ハ里程原標、鐵道ハ停車場、水路ハ波止場トス但シ同一市町村ニ於テ陸路、鐵道又ハ水路相互ルトキハ里程原標、停車場又ハ波止場間ハ路程ニ算入セス
- 二 一旅行中ノ路程ハ陸路、鐵道、水路毎ニ合計シ車馬賃、鐵道賃、船賃ヲ計算ス但シ旅費ノ定額又ハ所屬年度ヲ異ニシ若ハ旅行ノ中間ニ於テ宿泊料、日當ノ支給ヲ止ムルモノニ在リテハ各別ニ計算ス
- 三 路程ノ合算上生シタル一里、一哩又ハ一海里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
- 四 旅行中進級轉職等ニ依リ定額ニ増減ヲ生シタルトキハ發令ノ翌日 演習手當ニ在リヨリ新定額ニ依ル但シ鐵道賃、船賃ニ在リテハ最近ノ停車場又ハ寄港地ヲ以テ其ノ定額ヲ區分ス
- 五 旅行兩會計年度ニ跨ルトキ鐵道賃、船賃ニ在リテハ最近ノ停車場又ハ寄港地ニ著シタル日ヲ以テ旅費ノ年度所屬ヲ分チ演習手當ニ在リテハ後年度ノ所屬トス
- 六 前金波チ爲シタル旅費ハ前號ニ拘ラス支出シタル日ヲ以テ年度所屬ヲ分ツ但シ追給ノ場合ニ於テハ追給事由ノ生シタル日ヲ以テ之ヲ分ツ

第十九條 死亡ノ者ニ係ル旅費ハ之ヲ遺族ニ給ス

第二十條 左ノ旅費ハ前金渡ヲ爲スコトヲ得但シ實費之辨ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 赴任旅費

二 出張旅費中ノ修學旅費、入院退院轉院、刑事旅費及轉地療養ニ係ル旅費

三 歸郷旅費

四 召集旅費

五 駐割地旅費中前各號ノ旅費及歸還旅費

六 赴任ノ者ニ給スル馬匹旅費

第二十一條 旅費ノ支給應ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 本規則ニ於テ營外居住ト稱スルハ營外居住ノ給料ヲ受クル者及營外居住ノ者ニシテ獨立守備隊附ト爲リタル者ヲ謂フ

第二章 赴任旅費

第二十三條 赴任旅費ハ轉任、轉職、就職等ノ爲赴任スル軍人軍屬ニ之ヲ給ス但シ雇員傭人ニ在リテハ特ニ認可ヲ得タル者ニ限ル

第二十四條 赴任旅費ハ竝旅費、移轉料及家族移轉料ニ分ツ

第二十五條 竝旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第

一表ニ依ル

一 轉任、轉職ノトキ

二 待命、休職、停職、豫備役、後備役ノ軍人及非職休職ノ文官就職ノトキ

三 新任又ハ新ニ採用ノ者就職ノトキ

四 官衙、學校移轉ノトキ

第二十六條 移轉料ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第四表ニ依ル

一 准士官以上、營外居住新ニ營外居住ト爲リタル者ヲ除クノ下士兵

卒及軍屬轉任轉職ノトキ

二 營外居住ノ下士營內居住ノ職ニ轉スルトキ

三 准士官以上營外居住ノ下士兵卒及軍屬陣營、官衙、學校ト共ニ移轉スルトキ

第二十七條 家族移轉料ハ前條ノ場合ニ家族本人兵籍内ニ若ハ本人

同一戸籍内ニ在ルヲ携ヘ赴任スルトキ又ハ赴任後之ヲ

父母妻子ヲ謂フ新任地ニ移轉スルトキ左ノ区分ニ依リ之ヲ給ス但シ故

ナク一年ヲ超ヘ家族ヲ移轉スル場合ハ之ヲ給セス

一 家族三人以内ハ前二條ニ依リ受クヘキ新舊任地間本人旅費竝旅費及ノ十分ノ五ニ相當スル金額

二 家族四人以上ハ前號新舊任地間本人旅費ノ十分ノ六ニ相當スル金額

家族ノ携行又ハ移轉ニ付テハ所屬長官ノ證明ヲ要ス

第二十八條 赴任旅費ハ舊任地在郷ノ者就職ノトキハ現任地、新ニ任用ノ者就職ノトキハヨリ新任地ニ至ル順路ニ應シ之ヲ給ス但シ家族ヲ舊任地外ヨリ移轉スル場合ノ家族移轉料ハ赴任順路ニ入りタル地ヨリ之ヲ給ス

命課及配賦取扱等ノ爲甲地ヨリ乙地ニ著シ更ニ丙地ニ赴カシムルモノハ各地間ヲ通シテ一赴任旅行ト看做ス

第二十九條 旅行中轉任轉職等ニ依リ直ニ赴任セシムル者ニハ竝旅費ニ限リ前條ニ拘ラス左ノ區分ニ依リテ之ヲ給ス

一 公務旅行 修學ノ爲學校派遣中ニ在リテハ該旅行地ヨリ新任地迄

二 修學ノ爲學校派遣中ニ在リテハ當該學校所在地ヨリ新任地迄但シ赴任順路中當該學校所在地ヨリ舊所管ニ至ル順路ト一致スル經路ニ付テハ第三表ノ額ニ依ル

三 私事旅行中ニ在リテハ該旅行地ヨリ新任地迄但シ其ノ費額新舊任地間ノ旅費額ニ比シ多キトキハ新舊任地間ノ額ニ依ル

第三十條 赴任途中公務ニ依リ迂回又ハ滞在セシムル者ニハ實際ノ經路及旅行日數ニ依リ當該公務ノ種類ニ應

スル旅費ヲ給ス但シ移轉料及家族移轉料ハ第二十八條第一項ニ依ル

第三十一條 營内居住下士兵卒轉職ニ方リ退營後特ニ滞在セシムル必要アルトキハ宿泊料ノミヲ給ス其ノ定額ハ第三表ニ依ル

第三章 出張旅費

第三十二條 出張旅費ハ差遣、巡回、其ノ他ノ出張又ハ修學等ノ爲旅行セシムル軍人軍屬及諸生徒ニ之ヲ給ス

第三十三條 出張旅費ハ竝旅費、管内旅費、修學旅費、刑事旅費及滞在手當ニ分ツ

第三十四條 竝旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第一表ニ依ル

一 差遣、巡回、出張ノトキ但シ本規則中別ニ定アルモノヲ除ク

二 新任又ハ新ニ採用ノ爲召喚ノトキ

第三十五條 管内旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ

第二表ニ依ル但シ所管長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ該定額ヲ減少スルコトヲ得

一 師管又ハ駐劄地朝鮮、臺灣、樺太、清國以下同シ内ニ於ケル會議會報又ハ事務打合等ノトキ

二 軍隊官衙學校ニ於ケル業務ノ調査、視察等ノトキ

- 三 工事製造、營繕及輸送等ニ係ル作業ノ實施調査、
検査、視察等ノトキ
- 四 兵器材料等試験ノ實施調査、視察ノトキ
- 五 學術上ノ實施研究、調査、視察ノトキ
- 六 徴兵検査簡閱點呼及地方馬検査ノ實施視察等ノト
キ
- 七 新兵、召集兵等引卒ノトキ
- 八 要塞司令部、聯隊區司令部、警備隊區司令部、築
城部支部、軍馬補充部支部、兵器支(分)廠、憲兵
隊ノ職員其ノ業務ニ關スル管内旅行ノトキ
- 九 轉地療養所ノ選定視察閉診療等ノトキ
- 十 地理實查^{測圖}、物資調等ノトキ
- 十一 學校職員等教育資料聚集、調査等ノトキ
- 十二 物件ノ購買、受授、納品検査、廢品検査等ノトキ
- 十三 物件ノ宰領護衛又ハ修理手入消毒等實施ノトキ
- 十四 刑事事件ノ爲臨檢ノトキ
- 十五 軍法會議及ハ裁判所等ヨリ職務ニ關シ召喚セラ
レタルトキ
- 十六 在職中ノ用務ニ關シ在郷軍人等招致ノトキ
- 十七 其ノ他差遣、巡回、出張等ニシテ前各號ニ準ス
ヘキモノ

第三十六條 修學旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ
第三表ニ依ル

- 一 修學、見學、事務修習、隊務研究又ハ隊附勤務等
ノトキ
 - 二 營内居住ノ下士兵卒軍隊學校等ハ分遣ノトキ
 - 三 學生ト爲リ學校等ニ派遣ノトキ
 - 四 學術又ハ體格ノ検査ヲ受クルトキ
 - 五 下士以下ニシテ士官候補生、主計候補生又ハ生徒
ト爲リ入校又ハ入隊ノトキ
 - 六 地方幼年學校ノ生徒ニシテ中央幼年學校ノ生徒ト
爲リ又ハ陸軍召集規則ニ依リ旅費ヲ受クヘキ者生
徒ト爲リ入校ノトキ
 - 七 士官候補生、主計候補生學校ニ分遣ノトキ
 - 八 見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、配
賦ノトキ
 - 九 憲兵轉科志願ノ豫備役後備役下士兵卒學術修習ノ
爲招致ノトキ
 - 十 衛戍射擊會ハ參列ノトキ
 - 十一 前各號中召集派遣入校等ノ者ニシテ原所管等ニ
復歸ノトキ
- 前項第一號第三號及第九號ニ依リ軍隊學校等ニ召集派

遣セラレタル者ノ日當及宿泊料ハ到着ノ日限り之ヲ止

第三十七條 獨立守備隊ニ入隊ノ爲旅行セシムル下士兵

卒並其ノ引卒ヲ命セラレタル者、入院退院轉院、轉地療養共

爲旅行セシムル軍人軍屬營内居住下士以下ヲ除クノ外

並其ノ附添ヲ命セラレタル者及懲治隊ニ往復スル懲治

卒並其ノ護送ヲ命セラレタル者ニハ前條ニ準シ第三表

ノ旅費ヲ給ス但シ護送ヲ受クル者ニ在リテハ定額内實

費支辨トス

第三十八條 刑事旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ

第三表ニ依ル但シ護送ヲ受クル者ニ在リテハ定額内實

費支辨トス

一 被告事件ニ依リ審判ヲ受ケ無罪、免訴ト爲リ若ハ

罰金處分ヲ受ケ又ハ刑期滿限等ノ爲原所管ニ復歸

ノトキ

二 被告事件ニ關シ審判ヲ受クルトキ

三 前二號ノ場合ニ於テ護送ヲ爲ストキ

第三十九條 滯在手當ハ左ノ場合ニ於テ到着ノ翌日ヨリ

復歸ヲ命セラレタル日迄之ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ

依ル但シ召集又ハ派遣期間六箇月以内ノモノニ限ル

一 準士官以上營外居住ノ下士兵卒第三十六條第一項

集ノトキ

二 第三十六條第一項第九號ニ該當スル者外泊ヲ命セ

ラレタルトキ

第四十條 到着翌日ヨリ起算シ一地ニ滯在傷痍疾病ニ

十日ニ互ルトキハ其ノ翌日ヨリ第五表旅費料ニ相當ス

ル日當ノミヲ給ス

前項ノ者ノ中工事、物件ノ修理手入等ニ關シ旅行ノ者

ノ日當ニ在リテハ前項定額内ニ於テ所管長官之ヲ定ム

所屬長官ニ於テ滯在三十日以上ニ互ルト豫定シ得ル場

合ニ在リテハ三十日以前ト雖前二項ニ依リ日當ノミヲ

給スルコトヲ得

滯在地ヲ離レ三十日以内ニ再ヒ其ノ地ニ復歸スル者ハ

前後ノ日數ヲ通算シテ前各項ノ滯在日數ヲ定ム

第四十一條 要塞司令部ノ小蒸汽船又ハ艇船ニテ當該要

塞地帯内ヲ航行スル者船員 及警察勤務執行ノ爲要塞附

近ヲ航行スル憲兵ニハ其ノ航行中日當ヲ給セス但シ一

日内ニ往復シ難キ場合ニ在リテハ食卓料ヲ給ス

第四十二條 軍隊旅費ハ軍隊旅行、演習旅行等ノ場合ニ旅行スル軍人軍屬諸生徒及乗馬本分者ニ從屬スル馬丁ニ之ヲ給ス

第四十三條 軍隊旅費ハ隊伍旅費、單獨旅費、旅次手當及演習手當ニ分ツ

第四十四條 隊伍旅費ハ左ノ場合ニ隊伍先發後發ヲ爲シ若ハ引卒者ノ下ニ一團ト爲リ旅行ノトキ之ヲ給ス其ノ額ハ第五表定額内實費支辨トス但シ人員少數ニシテ所屬長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ該定額ヲ支給スルコトヲ得

一 軍隊旅行、演習旅行、陣營移轉、朝鮮、樺太、支那駐劄部隊交代等ノトキ

二 營内居住下士以下軍隊學校等ニ分遣ノトキ

三 將校演習旅行及學生生徒野外作業ノトキ

四 學術上ノ實地研究等ノトキ

五 兵器材料等ノ試驗實施等ノトキ

六 流行病其ノ他ノ事故ニ依リ軍隊、學生生徒等移轉ノトキ

七 轉地療養入院退院轉院等共ノトキ但シ准士官以上營外居住ノ下士以下及軍屬ニ在リテハ公務ニ起因スル傷病者ニ限ル

八 其ノ他各號ニ準スヘキモノ

第四十五條 前條ノ隊伍旅費中旅籠料ハ陸軍大臣特ニ認可シタル場合ノ外左ノ場合ニ限リ所屬長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ第五表ノ倍額迄之ヲ増加スルコトヲ得

一 前條第三號乃至第五號ノトキ

二 前號ノ外人員少數ノ爲第五號表定額ニ依リ離キトキ但シ演習旅行、陣營移轉及朝鮮、樺太、支那駐劄部隊交代ニ在リテハ先發又ハ後發ノ爲旅行スルモノニ限ル

第四十六條 單獨旅費ハ第四十四條ノ旅行ニ關シ左ノ場合ニ單獨旅行スルトキ之ヲ給ス其ノ定額ハ第三表ニ依ル但シ第一號ノ場合ニ在リテハ定額内實費支辨トスルコトヲ得

一 先發後發ノトキ又ハ公務若ハ傷痍疾病等ニ依リ其ノ部隊ヲ離レシムルトキ

二 將校演習旅行、學生野外作業ノ場合ニ於テ統裁官以下及專習員等集合地ニ出發又ハ解散地ヨリ歸還ノトキ

三 演習旅行、將校演習旅行、學生生徒等野外作業ノ場合ニ於テ所屬長官等之ニ關シ又ハ實視ノ爲出張ノトキ

四 前二號ノ演習又ハ野外作業習學ノトキ
 前項第一號ニ該ル者隊伍旅費ヲ受クル部隊ニ合スルト
 キハ其ノ合シタル日ヲ以テ單獨旅費ヲ止メ第二號乃至
 第四號ニ依ル者ハ演習又ハ作業地到着ノ翌日ヨリ該地
 ヲ離ルル日ノ前日迄隊伍旅費ニ依ル

第四十七條 旅次手當ハ儀仗兵、陣營移轉、暴徒鎮定其
 ノ他之ニ準スヘキ場合ニ於テ隊伍旅費ヲ受ケ旅行スル
 トキ之ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ依ル

第四十八條 演習手當ハ左ノ場合ニ隊伍旅費ヲ受ケ一週
 日以上旅行スルトキ之ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ依ル
 但シ管内居住下士以下ニ在リテハ之ヲ給セス

一 演習旅行及之ニ準スヘキ旅行ノトキ
 二 將校演習旅行及學生生徒等野外作業ノトキ
 三 前二號ノ演習又ハ野外作業ニ關シ出張又ハ其ノ實
 視見學等ノトキ

第四十九條 旅次手當、演習手當ハ所管長官ニ於テ其ノ
 定額ヲ減少シ又ハ之ヲ給セサルコトヲ得

第五十條 旅次手當、演習手當ノ支給ニ關シテハ入院、入
 營倉、留置及入監中ノ日數ヲ控除ス

第五十一條 隊伍旅費ヲ受ケ旅行スル軍人軍屬ノ荷物ハ
 附表ノ定限量目以内官費ニ依リ之ヲ運搬ス

第五章 歸郷旅費

第五十二條 歸郷旅費ハ軍人諸生徒理事等歸郷ノトキ之
 ナ給ス但シ懲戒又ハ刑罰處分ニ依リ失官、免官ト爲リ
 歸郷スル者兵卒ト爲リタル者ニハ之ヲ給セス

第五十三條 歸郷旅費ハ營外者歸郷旅費、營内者歸郷旅
 費ニ分ツ

第五十四條 營外者歸郷旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ
 定額ハ第一表ニ依ル

一 准士官以上在職ノ者待命、休職、停職、豫備役、後
 備役、退役ト爲リ歸郷ノトキ

二 理事非職、豫備、退職、免官ト爲リ歸郷ノトキ

三 營外居住ノ下士兵卒現役ヲ離レ又ハ免役、免官ト
 爲リ歸郷ノトキ

四 豫備役、後備役ノ軍人ニシテ平時部隊ニ就職下士
兵卒
ニ在リテハ營外居住ノシタル者其ノ職ヲ免セラレ
職ニ就キタル者ニ限ル歸郷ノトキ

前項第一號ニ該當スル者ニハ前項歸郷旅費ノ外第四表
 ノ移轉料ヲ給ス

第五十五條 營内者歸郷旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ
 定額ハ第三表ニ依ル

一 營内居住ノ下士兵卒現役ヲ離レ又ハ歸休、免役、免

官下爲リ歸郷ノトキ
 二 豫備役後備役下士兵卒ニシテ平時部隊ニ於ケル營内居住ノ職ニ就キタル者其ノ職ヲ免セラレ歸郷ノトキ

三 士官候補生、主計候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、營内居住ノ生徒及理事試補傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ困リ歸郷ノトキ

軍人及諸生徒等被告事件ノ爲罰金科料ニ處セラレ又ハ陸軍監獄ニ入監中刑期滿限ト爲リ歸郷ノトキハ前項ニ準シ第三表ノ旅費ヲ給ス

第五十六條 歸郷旅費(移轉料共)ハ舊任地ヨリ本籍地ニ至ル順路ニ應シ之ヲ給ス

准士官以上營外居住ノ下士以下及理事ニシテ私事旅行中該旅行地ヨリ直ニ歸郷スル者ニ在リテモ亦前項ニ同シ

營内居住ノ下士以下ニシテ旅行中直ニ歸郷セシムルトキノ歸郷旅費ハ該旅行地ヨリ之ヲ給ス

營内居住ノ下士以下ニシテ入院中歸郷ヲ命セラレ傷疾疾病ノ爲其ノ引取人ノ現住地ニ護送ヲ要スル者ニハ病院ヨリ該地迄ノ旅費ヲ給ス

第五十七條 准士官以上營外居住ノ下士兵卒及理事在職

中死亡シタルトキハ其ノ際第五十四條及第五十六條ニ準シ歸郷旅費ヲ給ス

第五十八條 歸郷旅費(移轉料共)ハ之ヲ支給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ九十日以内ニ請求セサル者ニハ之ヲ給セス

第六章 召集旅費

第五十九條 召集旅費ハ在郷軍人、理事及國民兵召集ノ場合ニ之ヲ給ス

第六十條 召集旅費ハ召集旅費、滞在日當ニ分ツ

第六十一條 召集旅費ハ召集又ハ歸郷ノトキ左ノ區分ニ依リ順路ニ應シ之ヲ給ス其ノ定額ハ第七表ニ依ル

一 本籍地ニ於テ召集セラレタル者ニハ本籍地到着地間

二 寄留地ニ於テ應召ヲ許可セラレタル者及一年志願兵ニシテ第一次第二次勤務演習ノ爲寄留地ニ於テ召集セラレタル者ニハ寄留地到着地間

三 臺灣居住者ニシテ同地所在部隊ニ召集セラレタル者ニハ現住地到着地間

召集令狀交付後本籍寄留又ハ住所ヲ轉シタル者ノ召集旅費ハ召集令狀交付當日ニ於ケル前項各號ノ本籍地寄留地又ハ現住地ニ依リ之ヲ給ス

第一項ニ依リ召集ノ者集合地ヨリ部隊編入迄引卒セラレ旅行スルトキノ旅費ハ第七表定額内實費支辨トス

第六十二條 滞在日當ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ給ス

- 一 到着地ニ宿泊セシムル者ニハ到着ノ翌日ヨリ部隊編入前日迄第七表ノ日當甲額但シ集合宿泊セシムル場合ニハ定額内實費支辨トス
- 二 准士官以上理事ニハ部隊編入當日ヨリ召集解除ノ前日迄第七表ノ日當乙額

第六十三條 召集部隊所在地ニ於テ召集ヲ解除シ直ニ歸郷セシムル者ニハ左ノ區分ニ依リ旅費ヲ給ス

- 一 准士官以上及理事ニハ第六十一條ニ依ル旅費ノ外召集解除地ヨリ召集部隊所在地迄順路ニ應シ第七表ノ額
- 二 下士以下ニハ召集解除地ヨリ第六十一條ノ本籍地寄留地又ハ現住地迄順路ニ應シ第七表ノ額

第六十四條 准士官以上理事召集中死亡シタルトキハ其ノ際第六十一條ニ準シ旅費ヲ給ス

第七章 駐劄地旅費

第六十五條 駐劄地旅行ニ係ル旅費ハ本章ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ各章ノ規定ニ依ル

第六十六條 駐劄地旅費ハ朝鮮臺灣樺太旅費、支那旅費、歸還旅費及支度料ニ分ツ

第六十七條 駐劄地ニ於ケル第二章乃至第六章ノ旅費ハ左ノ對照ニ從ヒ相當定額ニ依リ馬匹旅費ハ實費ニ依ル

内地定額	朝鮮臺灣樺太定額	支那定額
第一表	第八表	第九表
第二表	第八表	第九表
第三表	第八表	第九表
第四表	第四表	第九表
第五表	第八表	第九表
第六表	第六表	第六表
第七表	第七表	第六表

第六十八條 駐劄地諸部隊附軍人軍屬等ニ係ル前條ノ旅費中内地旅費ノ第二表、第三表及第五表ニ相當スルモノハ當該地方ノ狀況ニ應シ定額以内ニ於テ臺灣樺太、關東都督、朝鮮駐劄軍司令官、支那駐屯軍司令官又ハ第七師團長其ノ額ヲ定メ陸軍大臣ニ報告シ且當該地方及内地ノ關係部隊ニ通報スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六十九條 内地ト駐劄地間又ハ支那ト他ノ駐劄地間ノ旅行ニ付テハ左ノ區分ニ依リ旅費ヲ給ス

一 内地ヨリ駐割地ニ旅行ノトキハ駐割地ニ於ケル最初ノ著船地迄、駐割地ヨリ内地ニ旅行ノトキハ駐割地ニ於ケル最後ノ發船地ヨリ内地ノ額ニ依ル但シ駐割地最初著船當日ノ日當ハ駐割地ノ額、駐割地最後發船當日ノ日當ハ内地ノ額ニ依ル

二 朝鮮、臺灣、樺太ヨリ支那ニ旅行ノトキハ支那ニ於ケル最初ノ著船地迄、支那ヨリ朝鮮、臺灣、樺太ニ旅行ノトキハ支那ニ於ケル最後ノ發船地ヨリ朝鮮臺灣樺太ノ額ニ依ル但シ支那最初著船當日ノ日當ハ支那ノ額、支那最後發船當日ノ日當ハ朝鮮臺灣樺太ノ額ニ依ル

三 甲駐割地ヨリ乙駐割地ニ旅行ノトキ内地ヲ經由スルモノニ在リテハ第一號ノ例ニ依ル

第七十條 支度料ハ准士官以上營外居住ノ下士以下及軍屬朝鮮、樺太、支那ニ旅行スルトキ左ノ區分ニ依リ之ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ依ル但シ自己ノ請願ニ依リ旅行ヲ免セラレタル者ニハ之ヲ給セス

一 朝鮮、樺太、支那駐割部隊附ト爲リ内地又ハ臺灣ヨリ赴任スル者ニハ全額

二 樺太、支那ニ内地又ハ臺灣ヨリ出張スル者ニハ半額但シ樺太ニ在リテハ十一月以降二月ニ至ル期間

ニ限ル

三 支度料ヲ受クヘキ者ニシテ出發前死亡シ又ハ官ノ都合ニ依リ旅行ヲ免セラレタルトキハ其ノ受クヘキ支度料ノ半額

四 支度料ヲ受ケタル後一年以内ニ再ヒ出張又ハ赴任スル者ニシテ新ニ受クヘキ額既ニ受ケタル額ヨリ多キトキハ其ノ差額

支度料ハ前項第四號ノ場合ヲ除クノ外支給後一年以内ニ再ヒ旅行スル者ニハ之ヲ給セス

第七十一條 雇員傭人給料支給規則備給表ニ掲クル者ヲ除クノ外傭人ニハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ支度料ヲ支給スルコトヲ得ス

第七十二條 内地駐割地間赴任ノトキハ左ノ場合ニ限リ移轉料及家族移轉料ヲ給ス

一 臺灣諸部隊ニ赴任ノ者ニシテ家族ノ渡行ヲ許サレタルトキ

二 朝鮮、樺太、支那駐割部隊ニ赴任シタル者及移轉料ヲ受ケスシテ臺灣諸部隊ニ赴任シタル者再ヒ内地部隊附ヲ命セラレ内地ニ於ケル新舊任地異ナルトキ

第七十三條 歸還旅費ハ朝鮮、樺太、支那駐割部隊ニ赴

任シタル者及移轉料ヲ受ケスシテ臺灣諸部隊ニ赴任シタル者歸郷ノ爲内地ニ歸還セシムルトキ左ノ場合ニ限リ之ヲ給ス其ノ定額ハ朝鮮臺灣樺太内ニ在リテハ第八表、支那内ニ在リテハ第九表内地ニ在リテハ第一表ニ依ル但シ文官理事ヲ除ク及雇員備人ニ在リテハ總テ第一表ノ鐵道賃、船賃及車馬賃ノミヲ給ス

一 准士官以上待命休職停職豫備役後備役退役ノトキ
二 營外居住ノ下士卒現役ヲ離レ又ハ免役、免官ノトキ

三 文官休職、非職、豫備、退職、退官、免官ノトキ
四 内地ニ於テ採用セラレ赴任シタル雇員及傭人解雇解備ノトキ

歸還旅費ハ赴任當時ノ内地ニ於ケル前任地新ニ採用シ其ノニ至ル順路ニ應シ之ヲ給スタルモノハ准士官以上營外居住下士卒及理事ニハ前項旅費ノ外

第五十四條及第五十六條ニ依リ歸郷旅費(移轉料共)ヲ給ス歸還旅費ハ自己ノ便宜若ハ懲戒又ハ刑罰處分ニ據リ歸還スル者ニハ之ヲ給セス

第七十四條 歸還旅費ヲ受ケヘキ准士官以上營外居住下士卒卒及理事ニシテ駐劄中死亡シタルトキハ其際第五十七條ノ歸郷旅費ノ外歸還旅費ヲ給ス

第七十五條 臺灣諸部隊附ノ文官理事及移轉料ヲ受ケケタル者ヲ除ク職、退職、退官、免官ト爲リ歸郷スルトキハ該地ヨリ

本籍地迄歸郷旅費ヲ給ス其ノ定額ハ第一表ノ鐵道賃、船賃及車馬賃ニ相當スル額トス但シ自己ノ便宜上若ハ懲戒又ハ刑罰處分ニ據リ歸郷スル者ヲ除ク

前項ニ依リ歸郷旅費ヲ受ケヘキ者駐劄中死亡シタルトキハ其ノ際歸郷旅費ヲ給ス

第七十六條 駐劄地部隊附ノ者移轉料ヲ受ケ赴任シタル者ヲ除ク内地ニ於ケル舊任地ニ出張滞在中ハ日當ニ限り之ヲ給ス

第八章 測量旅費

第七十七條 測量旅費ハ陸地測量及修技所生徒測量修業ノ爲出張セシムル者ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第十表ニ依ル

第七十八條 測量旅費ハ旅次日當、作業日當、滞在日當、又測夫日當ニ分ツ

第七十九條 旅次日當ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス但シ内地、朝鮮、臺灣、樺太、支那間ノ水路旅行中ノ旅費ハ第一表ニ依ル

- 一 在職ノ地ヨリ測量班ノ地區ニ往復スルトキ
- 二 測量班ノ地區内ニ於ケル甲地區内ヨリ一日行程以上ノ乙地區内ニ轉スルトキ

旅次日當ノ支給ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 旅行日數ノ算定ハ第七條ニ依リ十二時間未滿ノ端時間ヲ生シタル場合ハ七時間以上ニ在リテハ日當全額七時間未滿ニ在リテハ日當半額ヲ給ス
 - 二 陸路ノ時間ト鐵道及水路ノ時間ヲ通算スル場合ノ日當ハ其ノ時間ノ多キ方ノ額ニ依リ時間等シキトキハ鐵道、水路ノ額ニ依ル
- 第八十條 作業日當ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス但シ第三號ノ場合ニ在リテハ夜數ニ依ル

- 一 測量地到着ノ翌日ヨリ其ノ地引揚ノ前日迄
- 二 測量班地區内ニ於ケル甲地區内ヨリ一日行程未滿ノ乙地區内ニ轉スルトキ
- 三 在職ノ地ヨリ三里未滿ノ地ニ旅行ノ場合ニ在リテ公務ノ都合上宿泊セシムルトキ

第八十一條 滞在日當ハ出張中傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ依リ作業ニ服セス滞在スルトキ其ノ間旅次日當又ハ作業日當ニ代ヘ之ヲ給ス

第八十二條 測夫日當ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス但シ第二號ノ場合ニ在リテハ夜數ニ依ル

- 一 陸地測量ノ爲測夫ヲ旅行セシムルトキ出發ノ當日ヨリ歸著ノ當日迄

二 在職ノ地ヨリ三里未滿ノ地ニ旅行ノ場合ニ在リテハ公務ノ都合上宿泊セシムルトキ
舟車馬ニテ旅行セシムル測夫ニハ前項日當ノ外舟車馬費ノ實費ヲ給ス

第八十三條 測量旅費ハ所管長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ定額内ノ實費ヲ給シ、作業日當ニ在リテハ定額内ニ於テ支給額ヲ定ムルコトヲ得

第九章 馬匹旅費

第八十四條 馬匹旅費ハ乘馬ヲ牽連レ旅行セシムル者ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第十一表ニ依リ運搬費ハ赴任ノ場合ヲ除クノ外定額内實費支辨トシ日當ハ滞在間及乘馬ニテ旅行セシムルトキノミ之ヲ給ス

馬匹旅費中ニハ馬丁ニ依ル旅費ヲ包含ス

第八十五條 馬匹旅費ヲ給スルハ左ノ場合ニ限ル

- 一 乘馬本分ノ者赴任ノ際自馬ヲ牽連レ旅行スルトキ、新ニ乘馬本分ノ職ニ就キ又ハ轉職等ニ依リ乘馬定數ヲ増シタル者亦同シ
- 二 公務上ノ必要ニ依リ乘馬ヲ牽連レ旅行セシムルトキ但シ隊伍旅費ヲ受クル旅行間ハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 駐劄地部隊附乘馬本分ノ者内地ニ於ケル乘馬本分ニ非サル職ニ轉シ又ハ内地ニ歸還若ハ歸還ニ際シ

乘馬轉職等ノ爲定數ニテ素速レ旅行ノトキ
超過シタル乘馬共

第十章 囑託者旅費

第八十六條 囑託者旅費ハ陸軍ノ用務ニ關シ囑託者等ニ
旅行ヲ爲サシムルトキ之ヲ給ス

第八十七條 囑託者旅費ノ支給ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 演習場主管ニハ本規則ヲ準用シ其ノ定額ハ本官相
當ノ額ニ依ル
- 二 陸軍部外ノ在官者及公吏巡查等ニハ當該旅費規定
ニ依ル
- 三 聯隊區又ハ警備隊區徵兵副醫官ノ職務ヲ執ラシム
ル地方醫師ニハ内國旅費規則ニ依リ其ノ定額ハ奏
任官六等以下ノ額ニ依ル
- 四 前各號以外ノ囑託者等ニ在リテハ特ニ定メアル
ノヲ除クノ外奏任官待遇ノ者及奏任官ノ職ヲ執ラ
シムル者ハ中少尉ノ額其ノ他ノ者ハ伍長ノ額ニ依
ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年陸軍省令第三號ハ之ヲ廢止ス

(附考略ス)

●朝鮮支那駐劄部隊附
赴任者支度料支給方

大正四年二月六日
陸軍省令第二號

朝鮮又ハ支那駐劄ノ諸部隊附ト爲リ内地又ハ臺灣ヨリ赴
任スル者ニシテ駐劄地ニ出發前一箇年以内ニ陸軍戰時給
與規則ニ依リ手當金ノ支給ヲ受ケタル者ニハ陸軍旅費規
則ニ依ル支度料ハ之ヲ支給セス但シ支度料ノ額既ニ受ケ
タル手當金ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ヲ支給ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●徵兵旅費規則

明治三十年十月二十五日
內務省令第三十二號

(一部改正) 明治三十九年六月內務省令第五號、同年七月同第
二六號、四〇年一〇月同第三三號、大正三年三
月同第一號

北海道廳 府 縣

明治二十年十二月十二日 大藏省令第十七號徵兵旅費規則左ノ通改

正シ明治三十年十月ヨリ施行ス

徴兵旅費規則

第一條 徴兵旅費ハ検査入營ノ二種ニ分チ之ヲ支給ス

一 検査旅費ハ檢定及呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癡疾不具等ノ者ニ同伴シタル保護人抽籤人等居住地ヨリ検査所又ハ抽籤所ニ往返ノ旅費トス

二 入營旅費ハ新兵居住地ヨリ營所ニ至ルノ旅費トス

第二條 検査旅費ハ左ノ規定ニ依ル

一 片道三里已上ノ旅行ヨリ里數ニ應シ陸路雜費一里ニ付金五錢ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス

二 官ノ都合ニ依リ特ニ滞在ヲ命シタルトキハ日數ニ應シ滞在日當金四十錢ヲ支給ス

三 川留雪支等ニテ旅行途中ニ滞在スルトキハ其ノ地市區町村長戸長及ヒ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當金四十錢ヲ支給スルコトヲ得

四 片道三里已上ノ旅行ニシテ渡航ニ在ラサレハ至リ難キ場所若クハ地勢上渡航又ハ汽車乗用ヲ便トスルトキハ第一號ノ陸路雜費ヲ給セス渡航賃汽車賃ノ下等實費ヲ支給ス

五 第四號ノ場合ニ於テハ尙夜數ニ應シ宿泊料金三十

錢ヲ給ス其ノ徒歩旅行ト跨ル日ハ其ノ徒歩旅行ニ對シテハ第一號ノ陸路雜費ヲ支給ス

六 渡航賃及ヒ汽車賃ノ實費ヲ給スル場合ニ於テハ下等賄ノ實費ヲ給スルコトヲ得

七 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ渡航ニ在ラサレハ至リ難キ場合ハ渡航賃ノ下等實費ヲ支給スルコトヲ得

八 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニ依リ特ニ宿泊ヲ命シタルトキハ夜數ニ應シ宿泊料金三十錢ヲ支給ス

第三條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癡疾不具等ニシテ歩行シ能ハサルトキハ第二條第一號陸路雜費ノ外尙ホ片道一里已上ヨリ里數ニ應シ金十錢ノ車馬賃ヲ支給ス但シ一里未滿ノ端數ハ切捨トス

第四條 入營旅費ハ左ノ規定ニ依ル

一 片道三里已上ノ旅行ヨリ里數ニ應シ陸路雜費一里ニ付金八錢ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス

二 第二條ノ第二號乃至第八號ハ入營旅費ニ適用シ滞在日當ハ金四十五錢宿泊料ハ金四十錢トス

二ノ二 官用ノ船舶ニテ渡航スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ日數ニ應シ食卓料金五十錢ヲ支給ス

- 三 新兵入營ノ旅行ハ一日十二里詰トシ若シ集合上ノ都合等ニ依リ其見積リ行程ヨリ延著セシメタルトキハ日増數ニ應シ滞在日當ノ額ヲ支給ス
- 四 新兵入營旅行中疾病ニ罹リ歩行シ能ハスシテ車馬等ヲ要シ又ハ滞在シタルトキハ附添吏員ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ請求スルトキハ車馬賃等ノ實費又ハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

附則

- 第五條 北海道廳管内ニ限リ第二條第一號ノ陸路雜費ハ金八錢第三條ノ車馬賃ハ金十三錢第四條第一號ノ陸路雜費ハ金十錢滞在日當宿泊料ハ總テ金五十五錢トス
- 第六條 臺灣總督府朝鮮總督府樺太廳管内及滿洲其他諸外國内ニ限リ第四條ノ支給額ハ實費ヲ支給スル場合ノ外總テ其倍額トス

●徵兵旅費繰替支辨ニ

關スル件

大正二年三月二十五日 勅令第二十五號

朕徵兵旅費繰替支辨ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵旅費ハ居住地又ハ歸郷スヘキ事實ノ生シタル地ノ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ一時繰替支辨スヘシ

附則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●徵兵旅費繰替支辨ニ關スル件施行規則

大正二年三月三十一日 內務省令第五號

- 大正二年勅令第二十五號施行ニ關スル規則左ノ通定メ大正二年四月一日ヨリ施行ス
- 第一條 徵兵検査及入營旅費ハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ明治三十年內務省令第三十二號徵兵旅費規則ニ依リ仕拂ヲ爲スヘシ
- 第二條 市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ仕拂タル額ハ便宜ノ時期ニ於テ左記書式ニ準據シ其拂戻ヲ所屬地方廳ニ請求スヘシ
- 徵兵旅費拂戻請求書
- 一金何圓也

但(検査)(入營)旅費何人分ニシテ各債權者ノ氏名ハ別紙ノ如シ(別紙ニハ氏名ヲ列記スルコト)一人ニ對スル旅費内譯

種別	摘要	金額
陸路雜費	何	
汽車賃	實	
波航賃	實	
日當	何	
宿泊料	何	
何々	何	
合計	金	
	夜	
	日	
	費	
	費	
	々	

右何郡何市町村ヨリ(何府縣)何郡何市町村(徴兵検査場往復)(營所ニ至ル)旅費請求候也

年月日 何郡何市町村長 誰 印
地方廳宛

●陸海軍軍人軍屬旅費前金渡ノ件

明治三十八年一月二十一日
勅令第二十二號

朕陸海軍軍人軍屬旅費前金渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
陸海軍軍人軍屬ノ旅行ニシテ其ノ種類ニ依リ旅費ノ前金渡ヲ必要トスルトキハ出發ノ際順路ノ行程ニ應シ旅費ヲ前金渡スルコトヲ得
前金渡ヲ爲スヘキ旅行ノ種類ハ主務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令施行ノ期日ハ主務大臣各別ニ之ヲ定ム
明治三十一年勅令第四十六號ハ之ヲ廢止ス

●海軍軍人軍屬旅費前

金渡方 明治三十八年二月三日
海軍省令第一號

(一部) 明治四二年一二月海軍省令第五號、四三年八月
改正) 同第八號

海軍軍人軍屬ノ旅行ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ明治三十八年勅令第二十二號ニ依リ其ノ旅費ヲ前金渡スルコトヲ得

一 准士官以上候補生及文官繼嗣其ノ他各部ニ赴任ス

- 二 准士官以上待命、休職、停職トナリ滞在指定地ニ旅行シ又ハ在籍地(士官以上ハ東京、兵曹長同相當地ニ歸住スルトキ)並待命、休職、停職ノ准士官以上指定地ニ滞在ヲ免セラレ在籍地(士官以上ハ東京、兵曹長同相當地ニ歸住シ又ハ滞在指定地ヲ更定セラレ其地ニ旅行スルトキ)
- 三 下士卒及雇員傭人艦團其ノ他各部ノ勤務ヲ命免セラレ旅行スルトキ
- 四 生徒、學生、下士卒及艦營傭人入隊若ハ陸地療養ヲ爲シ又ハ施療場所ヲ移轉スルトキ並退院又ハ療養ヲ終ヘ復歸スルトキ
- 五 下士卒被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ニ歸シ又ハ假出獄、刑期滿限ニ依リ復歸スルトキ
- 六 准士官以上豫備役、後備役、退役ト爲リ、生徒退校ヲ命セラレ、下士卒豫備役、後備役、免官、免役ト爲リ若ハ歸休ヲ命セラレ歸郷スルトキ
- 七 生徒入校又ハ志願兵入團ノ者其ノ採用ヲ取消サレ歸郷スルトキ
- 八 豫備役後備役ノ軍人、歸休下士及歸休兵召集セラレ

- 九 レ召集地ニ旅行シ又ハ召集ヲ解カレ歸郷スルトキ臺灣在勤ノ准士官以上廢官ト爲リ、候補生ニシテ候補生ヲ免セラレ、文官休職、免官、廢官ト爲リ、雇員傭人解雇解備ト爲リ内地ニ復歸スルトキ並艦船乘組艦營傭人解備ト爲リ傭入地ニ復歸スルトキ
 - 十 准士官以上、候補生及軍屬臺灣在勤中又ハ豫備役後備役ノ准士官以上、候補生召集中死亡シ内地又ハ應召地迄旅費ヲ支給スルトキ
- 附 則
- 本令ハ明治三十八年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●陸海軍召集諸費繰替支辨ニ關スル件

明治四十一年三月十四日
法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸海軍召集諸費繰替支辨ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍召集諸費ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ一時繰替支辨スヘシ

附 則

本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十年法律第十三號ハ之ヲ廢止ス

●陸海軍召集諸費支辨

方

明治四十一年三月三十一日
勅令第六十一號

朕陸海軍召集諸費支辨方ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 陸海軍召集旅費ハ應召員召集部隊又ハ海兵團ニ到著後該部隊又ハ海兵團ニ於テ支給ス但シ集合場ヨリ直ニ歸郷セシムル者ニ在リテハ該集合場ニ於テ支給ス
- 第二條 前金渡ヲ爲スニ非サレハ召集ニ應スルコト能ハサル者ノ召集旅費ハ現住地市町村 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘニ於テ繰替支給スヘシ
- 第三條 市町村ニ於テ要スル召集雜費ハ市町村ニ於テ繰替支辨スヘシ
- 第四條 前二條ノ繰替支辨金ノ拂戻ニ關スル手續ハ陸軍大臣、海軍大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍召集諸費支出規程

程

明治四十一年五月五日
陸軍省令第十一號

陸軍召集諸費支出規程左ノ通改正ス

陸軍召集諸費支出規程

- 第一條 召集諸費ヲ分チテ召集旅費及召集雜費トス召集旅費ハ應召員ノ旅費、召集雜費ハ召集事務所ノ諸費應召員ノ引率諸費召集ニ關係アル官吏公吏ノ出張旅費諸部團隊官衙公署ニ要スル郵便電信料使丁賃金等トス
- 第二條 郡長之ニ準スヘキ者ヲ市長 東京市、京都市、大阪吏ト爲シタル人口二十萬以上ノ市及北海ハ充員召集實道沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長以下同シ
- 第三條 召集旅費區分表第一ヲ作り師團經理部長ノ承認ヲ經タル後聯隊區司令官 警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官以下之ニ準スヘキ者ヲニ送付ス
- 第四條 郡長ハ尙町村長 包含ス以下同シ
- 第五條 爾後異動ノ爲訂正ヲ要スルトキ亦同シ
- 第六條 聯隊區司令官前條ノ區分表ヲ受ケタルトキハ之ヲ一表ニ準スニ製シ師團經理部長及應召員ヲ編入スヘキ諸部團隊長ニ送付シ爾後異動アル毎ニ之ヲ訂正ス

ルト共ニ師團經理部長及關係諸部團隊長ニ通知スヘシ
第四條 諸部團隊長及町村長ハ前二條ニ依リ區分表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ保管シ召集旅費支給ノ用ニ供スヘシ

第五條 警視總監、地方長官ハ召集諸費ノ仕拂ヲ爲サシムル爲所屬官吏中ニ於テ一名ノ出納官吏ヲ命シ其ノ官職氏名ヲ二月盡日迄ニ其ノ地所管ノ師團長ニ通知シ尙地方長官ニ在リテハ之ヲ關係郡市町村長ニ通達スヘシ爾後異動アルトキ亦同シ

第六條 地方長官ハ市町村^{之ニ準スヘキモ}ヲ包含ス以下同シノ繰替支辨金拂戻ヲ爲サシムル爲必要アルトキハ分任出納官吏ヲ定メ其ノ官職氏名ハ關係郡市町村長ニ通達スヘシ爾後異動アルトキ亦同シ

第七條 師團經理部長ハ充員召集發令ト同時ニ請求ヲ待ツコトナク第五條ノ出納官吏ニ對シ所要ノ現金前渡ヲ爲スヘシ

出納官吏前項ノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ必要ニ應シ分任出納官吏ニ現金ヲ前渡シ又ハ直接ニ所要ノ仕拂ヲ爲スヘシ

第八條 市町村長ハ演習召集、教育召集又ハ補缺召集ノ發令アリタルトキハ直ニ繰替支給ヲ要スル旅費豫定額

ヲ取調ヘ第五條ノ出納官吏ニ通報スヘシ但シ分任出納官吏ヨリ拂戻ヲ受ケル場合ニ在リテハ同官吏ヲ經由スルモノトス

出納官吏前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ所要ノ現金前渡ヲ師團經理部長ニ請求シ其ノ現金ヲ受領シタルトキハ必要ニ應シ第六條ノ分任出納官吏ニ之ヲ前渡スヘシ

繰替支給額僅少ニシテ現金前渡ヲ要セサルトキハ第五條ノ出納官吏ヨリ現證書ヲ師團經理部ニ出シ同部ヨリ直ニ市町村ニ支拂ヲ爲スコトヲ得

第九條 市町村長ニ於テ召集諸費ヲ繰替支辨シタルトキハ證書類ヲ具シ其ノ拂戻ヲ第五條ノ出納官吏又ハ第六條ノ分任出納官吏ニ請求スヘシ

第十條 召集部隊ノ出納官吏召集旅費ノ支給ヲ爲ストキ又ハ市町村長召集旅費ノ繰替支給ヲ爲ストキハ應召員ノ召集令狀ヲ點檢シ召集旅費受領證書^{第二}氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ若シ印類ヲ携帯セサル者アルトキハ捺印又ハ花押セシムルモ妨ナシ

前項ノ場合ニ於テ市町村長ハ召集令狀裏面ニ旅費支給濟ト記載印シ之ヲ應召員ニ返付スヘシ

第十一條 演習召集又ハ教育召集中他ノ部隊ノ充員召集

ニ應スヘキ者ノ召集旅費ハ當該部隊間ノ距離ニ依リ演習又ハ教育召集部隊ニ於テ支給スヘシ

第十二條 集合場ニ到着スヘキ應召員ニシテ已ムヲ得サル事故ニ依リ直ニ召集部隊ニ到着シタル者ニハ召集部隊迄ノ旅費ヲ支給ス但シ其ノ事故傷痍疾病ニ依ルトキハ醫師ノ診斷證書其ノ他ハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ要ス

第十三條 前二條ノ外應召員ニ支給スヘキ召集旅費ノ計算ハ陸軍旅費規則ニ依ル

第十四條 充員召集實施ニ方リ召集諸費ニ係ル事務ハ晝夜ヲ分タス之ヲ處辨シ諸部副隊官衙公署ノ往復書類ニハ動ノ字ヲ冠シ文書ヲ發送スルニハ動員用封筒ヲ用ユヘシ

第十五條 第五條ノ出納官吏及其ノ分任出納官吏事故ニ依リ代理ヲ要スルトキ其ノ代理者ノ命免、會計規則第九十一條第九十二條及第百條ニ依リ要スル検査員立會員及計算書ヲ調製セシムヘキ者ノ任命ハ警視總監、地方長官ニ於テスヘシ

會計規則第九十三條ノ檢定書ハ師團長ニ提出スヘシ

第十六條 第五條ノ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スヘキ仕拂計算書及證書書類ハ毎月一回一時ノ仕拂ニ係ルモノハ其ノ仕拂ヲ

了リテ師團經理部長ニ送付スヘシ

分任出納官吏ノ仕拂計算書及證書書類ハ主任出納官吏

ニ提出シ該官吏ハ自己ノ計算ニ之ヲ併算スヘシ

第十七條 前諸條中充員召集ニ關スル規定ハ臨時召集、

國民兵召集ニ之ヲ準用ス

第十八條 臺灣居住ノ陸軍在郷軍人ヲ臺灣陸軍部隊ニ召集スル場合ニ於ケル召集諸費支出ニ關シテハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年陸軍省令第二號ハ之ヲ廢止ス

第五條ノ期日ハ明治四十一年ニ限り五月三十一日トス

(様式略ス)

第十七編 輸送、旅行

●鐵道軍事供用令

明治三十七年一月二十五日
勅令第十二號

(一部改正) 明治四一年一月勅令第三〇九號
朕稱密顧問ノ諮詢ヲ經テ鐵道軍事供用令ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム

鐵道軍事供用令

第一條 本令ニ於テ會社ト稱スルハ私設鐵道株式會社ヲ
謂フ

本令ニ於テ軍事輸送ト稱スルハ特ニ準備シタル列車ニ
依リ又ハ普通列車中一車輛以上ヲ專用シテ陸海軍關係
及其ノ携行シ又ハ之ニ宛テ追送スル馬匹及軍需品ヲ輸
送スルヲ謂フ

本令ニ於テ軍用列車ト稱スルハ軍事輸送ノ爲特ニ準備
シタル列車ヲ謂フ

第二條 會社ハ陸海軍官憲ノ要求ニ從ヒ軍事輸送ヲ爲ス
ヘシ

軍用列車ニハ陸海軍官憲ノ承認アルトキハ郵便物ヲ搭

載シ又ハ郵便車ヲ聯結スルコトヲ得

第三條 會社ハ他ノ會社ヨリ軍事輸送上必要ナル補助ヲ請求セラレタルトキハ業務ニ支障ナキ限り之ニ應スヘシ

第四條 軍用列車ハ搭載地ヨリ卸下地直通ノ運轉ヲ爲スヘシ

第五條 乗用ニ供スル車輛ハ將校、同相當官、准士官及軍屬タル高等文官若ハ之ニ準スヘキ者ニ在リテハ一等又ハ二等客車、下士卒及判任文官以下ノ軍屬ニ在リテハ三等客車トス

前項車輛ノ乘車人員ハ普通旅客定員ノ十分ノ八ヲ標準トス

第六條 馬匹ハ有蓋貨車ニ搭載スヘシ

第七條 戰用器材ハ無蓋貨車ニ搭載シ其ノ他ノ軍需品ハ其ノ種類及形狀ニ應シ有蓋貨車又ハ無蓋貨車ニ搭載スヘシ

第八條 客車ニハ普通旅客ニ供スルト同一ノ設備ヲ爲シ

第六條ノ貨車ニハ燈器、敷蓋及馬栓棒若ハ胸板ヲ備ヘ

第七條ノ貨車中職用車輛ヲ搭載スルモノニハ搭載品圍定川ノ木楔、綆、釘等ヲ備フヘシ

第九條 車輛ノ缺乏其ノ他已チ得サル場合ニ於テ陸海軍

官憲ノ承認アルトキ又ハ陸海軍官憲ノ要求アル場合ニ於テ會社ニ支障ナキトキハ第四條乃至第八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十條 軍事輸送ニ供スル車輛ハ清潔ニ掃除シ必要ナル場合ニ於テ消毒ヲ爲スヘシ

第十一條 會社ハ馬匹及軍需品ノ積卸ノ爲ニ要スル踏板及輸送上必要ナル雨覆等ヲ準備スヘシ

第十二條 會社ハ軍事輸送ニ際シ停車場内ノ點燈、公眾待合所、乗降場、厠等ヲ軍用ニ供スヘシ

第十三條 陸海軍官憲ニ於テ軍事輸送ニ際シ搭載卸下ノ爲必要ナル補足工事又ハ特別ノ施設ヲ爲サムトスルトキハ會社ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ供用線ニ屬スル土地建物機械器具又ハ材料ノ供用ヲ拒ムコトヲ得ス

會社ニ於テ前項ノ工事又ハ施設ヲ爲スヘキ要求ヲ受ケタルトキハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ場合ニ於テ供用ノ費用又ハ工事若ハ施設ニ要スル費用ハ之ヲ補償ス但シ其ノ金額ハ陸軍大臣ハ海軍大臣内閣總理大臣ト協議シテ之ヲ決定ス

第十四條 會社ハ陸海軍官憲ノ要求アルトキハ無償ニテ其ノ電信電話ニ依リ軍事輸送上直接ニ必要ナル通信ヲ取扱フヘシ

第十五條 軍事輸送ノ料金ハ別表ニ依リ之ヲ交付ス
前項ノ料金ハ陸海軍官憲會社ト協議シテ之ヲ低減スル
コトヲ得

第十六條 軍事輸送ノ實施ニ關スル規定ハ陸軍大臣海軍
大臣内閣總理大臣協議シテ之ヲ定ム

第十七條 前數條ノ規定ハ官設鐵道ニ之ヲ準用ス

第十八條 第二條第一項第十三條ノ規定ニ違反シタルト
キハ取締役ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ重禁錮
ニ處シ第三條第四條第六條乃至第八條及第十四條ノ規
定ニ違反シタルトキハ取締役ヲ百圓以下ノ罰金又ハ三
月以下ノ重禁錮ニ處シ第十條乃至第十二條ノ規定ニ違
反シタルトキハ取締役ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ一月以
下ノ重禁錮ニ處ス

附則

本令ハ明治三十七年一月二十六日ヨリ之ヲ施行ス
(別表略ス)

●鐵道軍事輸送規程

明治三十七年一月二十五日
陸軍省令第三號

鐵道軍事供用令第十六條ニ依リ鐵道軍事輸送規程左ノ通
リ定ム

鐵道軍事輸送規程

第一條 陸海軍ニ於テ軍事輸送ヲ要求セントスルトキハ
列車ノ組織車輛ノ數其他必要ノ事項ヲ定メ豫メ會社ニ
通報スルモノトス

第二條 鐵道軍事供用令第四條乃至第八條ニ依リ難キ場
合ニ於テハ會社ハ豫メ事由ヲ具シ軍事輸送ノ要求ヲ爲
シタル陸海軍官衙ニ申出ツヘシ

第三條 會社ニ於テ客車ノ代用トシテ有蓋貨車ヲ使用ス
ルトキハ代用車ニ適當ノ裝置ヲ爲シ且其乘車人員ハ車
内ノ床面積少クモ三平方呎毎ニ一名ノ比例ヲ標準トス
ヘシ

第四條 會社ニ於テ有蓋貨車ノ代用トシテ無蓋貨車ヲ使
用スルトキハ代用車ニ適當ノ裝置ヲ爲スヘシ

前項ノ貨車ニハ莠秣其他燃燒シ易キ物品ヲ積載スヘカ
ラス

第五條 馬匹ヲ搭載シタル車輛ニハ看守者ヲ附スルコト
アルヘシ

第六條 火藥類ハ有蓋貨車ニ搭載シ輸送中車扉ヲ密閉シ
置クモノトス

前項ノ貨車ハ如何ナル場合ニ於テモ機關車ノ直前又ハ直後ニ聯結スヘカラハ

火藥類ヲ搭載シタル貨車ハ軍用列車ニ限リ之ヲ軍隊若ハ其ノ輸送物ヲ搭載セル車輛ニ搭載スルコトヲ得

第七條 發火ノ虞ナキ様成規ノ包裝ヲ爲シタル火藥類ハ其種類ニ拘ハラズ軍用列車ニ限リ之ヲ同一車輛ニ搭載スルコトヲ得

第八條 火藥類ヲ輸送スル場合ニ於テ其受渡ノ時刻ハ輸送ヲ要求シタル官衙豫メ會社ト協議シテ之ヲ定ム

第九條 燃燒シ易キ物品ヲ無蓋貨車ニ搭載スルトキハ必要ニ應シ束縛ヲ浸シタル水桶ヲ準備シ且看守者ヲ附スルコトアルヘシ

第十條 軍用列車ニハ輸送指揮官(貨物輸送ノ場合ニ於テハ通常宰領者)ヲ附シ搭載卸下及輸送途中ノ取締ニ任セシム

普通列車ニ依リ軍事輸送ヲ爲ス場合ニ於テモ輸送指揮官又ハ宰領者ヲ附スルコトアルヘシ

第十一條 陸軍官衙若ハ海軍官衙ハ必要ニ應シ停車場司令官若ハ特ニ命シタル將校同相當官ヲ派遣シ當該停車場ニ於ケル輸送ノ業務ヲ掌ラシム

第十二條 軍事輸送ヲ要求シタル官衙ハ毎回輸送ニ對シ

鐵道軍用輸送券ヲ發行ス但輸送指揮官又ハ宰領者ヲ附セサル輸送ニ在テハ此限ニアラス

前項ノ輸送券ハ搭載地卸下地間ヲ通シテ一通トス但途中ニ於テ搭載又ハ卸下ヲ爲ス輸送物アルトキハ其輸送ニ關シテハ各別ニ輸送券ヲ發行スルモノトス

第十三條 輸送券ハ甲乙丙ノ三部ニ區分シ甲部ハ料金計算ノ用ニ乙部ハ料金對照ノ用ニ丙部ハ輸送途中ノ證據ニ供スルモノトス

第十四條 軍事輸送ノ料金ハ會社ヨリ仕拂請求書ニ輸送券ノ甲部ヲ添ヘ請求スヘシ但輸送券ヲ發行セサル場合ニ在テハ普通貨物輸送ノ例ニ依ルモノトス

二箇以上ノ會社ニ關係スル軍事輸送ノ料金ハ始發停車場所管ノ會社ヨリ請求スルモノトス
前項料金ノ分配方ハ關係會社協議ノ上之ヲ定ムルモノトス

第十五條 軍事輸送ノ料金ハ時宜ニ依リ現金拂ト爲スコトアルヘシ此場合ニ於テハ輸送券面ニ「料金拂濟」ト朱書スルモノトス

第十六條 鐵道軍事供用令第十三條ノ費用ハ一口毎ニ一通トシ會社ヨリ其仕拂請求書ニ證據書類ヲ添ヘ之ヲ請求スヘシ

第十七條 會社ニ於テ軍事輸送實施ノ爲生シタル民事上ノ損害ニツキ賠償ヲ受ケントスルトキハ一口毎ニ證據書類ヲ添ヘ主務大臣ニ申出ツヘシ

第十八條 會社ハ陸海軍ノ要求ニ依リ軍事輸送ニ關シ必要ナル事項ヲ報告スヘシ

第十九條 本規程ニ規定セサル事項ハ鐵道運轉規程鐵道信號規程及火藥類鐵道運送規程ノ規定ヲ準用ス

第二十條 本規程ハ官設鐵道ニ之ヲ準用ス
(附表略ス)

●陸軍運輸部輸送規程

大正五年十月十日
陸達第三十六號

陸軍運輸部輸送規程左ノ通改正ス
陸軍運輸部輸送規程

第一章 總則

第一條 陸軍運輸部ハ軍隊及軍需品ノ船舶輸送並之ニ附帶スル鐵道輸送ヲ擔任ス但シ軍需品ノミノ鐵道輸送ハ特別ノ命令アル場合ノ外之ヲ實施セサルモノトス

第二條 各部團隊ニ於テ前條ノ輸送ヲ要スルトキハ輸送

請求書附錄第一號ヲ調製シ成ルヘク速ニ之ヲ運輸部本部ニ送付シ且輸送實施前同本部ノ要求ニ應シ所要ノ職員ヲ派遣シ運輸部職員ト協議シ必要ノ準備ヲ爲サシムヘシ

急ヲ要スル場合及小ナル輸送ニ在リテハ附近ノ運輸部支部又ハ出張所ニ其ノ輸送ヲ請求スルコトヲ得

第三條 運輸部ハ前條ノ輸送請求書ニ基キ輸送計畫ヲ爲シ輸送請求者其ノ他ノ輸送關係者ニ之ヲ通牒スヘシ

急ヲ要スル場合及小ナル輸送ニ在リテハ前項ニ拘ラス輸送ヲ實施スルコトヲ得

第四條 輸送ニ關シ必要アルトキハ運輸部本部長ハ附近ニ在ル部隊ノ長官ニ協議シ所要ノ將校同相當官以下ヲ使用スルコトヲ得

第五條 輸送物品ノ梱包ハ通常重量八貫目容積六才以内トス但シ分解シ得サルモノニ限り増加スルコトヲ得
輸送物品ハ發送者ニ於テ包裝ヲ堅固ニシ各梱包毎ニ物品ノ名稱、數量及發著部隊號又ハ受領者、發送者ノ部隊號所屬部隊ナ官氏名ヲ記シタル堅牢ナル木札二箇以上ヲ固著スルカ又ハ上記ノ事項ヲ包裝表面ニ明記スヘシ但シ内容品多數ニシテ荷札又ハ包裝面ニ詳記スルコト困難ナル場合ニ在リテハ適宜簡略ニ記載スルコトヲ

得此ノ場合ニ在リテハ輸送請求書中ニ於テ各梱包毎ニ物品ノ名稱、數量ト梱包番號ヲ明記シ之ニ符合スル番號ヲ現品梱包荷物ノ荷札又ハ包裝表面ニ記載スヘシ

第六條 銃砲火藥類取締法施行規則ニ依ル火藥類其ノ他發火ノ虞アル物品ハ所定ノ容器ニ收納シ其ノ容器又ハ包裝ノ頂部見易キ所ニ火藥類ニ在リテハ火藥、爆藥若ハ火工品其ノ他ニ在リテハ危險品ト明瞭ニ朱記スルカ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且轉輾スルコトヲ得サルモノニ在リテハ其ノ旨ヲモ朱記スヘシ但シ油紙、油布等發火ノ虞アル物品ヲ以テ内部ヲ梱包シタルモノニシテ其ノ内容品危險ニ非サルトキハ油紙梱包、油布梱包等ト朱記シタル標札ヲ附スルモノトス

標札ハ長サ七寸幅三寸ヨリ小ナラサルモノ四箇以上ヲ固著シ頂部ニ固著スルモノニハ頂部ノ取扱ニ便ナラシムルモノトス但シ梱包ノ形狀、大小ニ依リ適宜標札ノ數ヲ減スルコトヲ得

第七條 運輸部ハ輸送物品ノ梱包不完全ニシテ輸送中破損ノ虞アリト認メタルトキハ其ノ改装若ハ補修ヲ輸送請求者ニ要求シ又ハ運輸部ニ於テ之ヲ行ヒ輸送請求者ヲシテ其ノ費用ヲ支辨セシムルコトアルヘシ

前項ノ規定ハ第二十六條ノ検査其ノ他税關検査ノ場合

ニ於ケル開梱、再梱ニ之ヲ準用ス

第八條 人馬、物件殊ニ危險品ノ輸送實施ニ關シテハ本規定ノ外陣中要務令、船舶輸送勤務令及鐵道輸送勤務令ニ準據スヘシ

前項ノ場合ニ於テ運輸部ハ陣中要務令、船舶輸送勤務令及鐵道輸送勤務令中船舶輸送司令部、碇船場司令部、線區司令部及停車場司令部ノ業務ヲ執行スルモノトス但シ要スレハ停車場司令部ハ運輸部ノ要求ニ依リ乗下車地師團ニ於テ設置スルモノトス

第九條 運輸部ハ輸送請求者ニ對シ努メテ輸送上ノ便宜ヲ與フヘシ

輸送セラレタル者及輸送物件ノ率領者ハ搭載及揚陸ニ關シ運輸部ヲ援助シ且輸送中運輸部本部長ノ定ムル諸規定ヲ守ルヘキモノトス

第十條 輸送ノ計畫、實施等ハ凡テ本規程ニ依リ運輸部之ヲ擔任スト雖軍隊輸送ニ於ケル乗下車、搭載、揚陸ハ軍隊自ラ之ニ任スルモノトス

第二章 船舶輸送

第十一條 船舶輸送ハ通常左記各號ノ船舶ヲ以テ行フモノトス若其ノ船舶ナキカ又ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ普通ノ商船ニ託スルコトヲ得

運送 船 陸軍所屬ノ船舶

又ハ借上商船
一部借上船 商船ノ船積一部ヲ
借上使川スルモノ

特約 船 官廳ノ命令ニ依リ商船ノ船積一部
ヲ特ニ陸軍ノ使用ニ供スルモノ

一部借上船及特約船ニ在リテハ其ノ借上若ハ使用ニ係
ル船積部ヲ成ルヘク明瞭ニ區劃スルヲ要ス

第十二條 運輸部ハ軍隊輸送ニ在リテハ輸送計畫ニ基キ

使用船舶ノ機裝其ノ他所要ノ設備ヲ爲シ且搭載、揚陸

前輸送指揮官ト搭載揚陸ニ關スル打合ヲ爲スモノトス

第十三條 左ノ各號ニ記載スルモノノ輸送ハ所屬長官部

ヲ有スル官衙ニ在リテ 差出人又ハ當該部隊ノ請求ニ依

リ該部局長以下同シ

一 陸軍官憲ノ命令ニ依リ内地、朝鮮、臺灣、滿洲、北

支那、青島各地相互間及神戸、宇品、門司相互間並

朝鮮、臺灣ノ沿岸ニ往復スル軍人、軍屬、陸軍諸生

徒、傭役者及馬匹但シ第十一條各號ノ船舶ナキ場

合及之ニ依ルコト能ハサル場合ニハ運輸部ノ證明

ヲ受ケ普通商船ニ依ルコトヲ得

二 朝鮮、臺灣、滿洲及北、中支那、青島ニ在ル部隊附

將校同相當官、准士官、見習士官、同相當 被服自辨

ノ下士卒並軍屬、傭役者等ヨリ還送シ又ハ之ニ宛

テ追送スル被服其ノ他日用品等

三 陸軍官憲ノ委託購買品、建築材料及前號各部隊

ノ酒保品但シ船積ニ餘裕アル場合ニ限ル

第十四條 左ノ各號ニ記載スル者ハ所屬長官ノ證明書 第

號ノ者ハ之ニ依リ運輸部ノ指示ニ從ヒ 第十一條各號ノ

ヲ受セス

船舶ニ便乘スルコトヲ得但シ軍隊ヲ輸送スル運送船ニ

便乘シ得ルハ軍人、軍屬ニシテ船積ニ餘裕アル場合ニ

限ル

一 現役陸軍軍人 召集又ハ在職中ノ豫備役後備役ノ者

奉職ノ者 陸軍諸生徒、入營兵及除隊兵並部外

ヲ含ム

二 在職陸軍軍屬

三 朝鮮、臺灣、滿洲及北支那、青島ニ在勤スル陸軍軍

人、軍屬 陸軍部外ニ奉職ノ家族 家族携行ヲ許可セ

タル場合ニ限リ病(分)院長ノ證明書ヲ有スル者ヲ

含ム及從者

四 輸送物件ノ宰領者

五 陸軍大臣ノ許可證ヲ有スル者

第三號ノ家族携行ヲ許可セラレタル者ノ父母妻子其ノ

他扶養ヲ受ケ之ト同居スル者ニ限ル又從者ハ勅任官以

上ハ三名以内委任官ハ二名以内トシ准士官以下ハ家族
携行ノ場合ニ限り一名ヲ許可スルコトヲ得家族ノミ便
乗スル場合ノ從者亦同シ

第十五條 運輸部ハ至急ノ官用ヲ以テ内地、朝鮮、臺灣、
滿洲、北支那、青島間ヲ往復スル陸軍部外ノ官吏及屬
員ニシテ所屬官衙ノ長官ヨリ便乗請求アル者ニ對シ陸
軍ノ使用船舶ニ便乗ヲ許可スルコトヲ得

第十六條 所屬長官ハ第十三條第一號、第十四條各號及
第十五條ノ者ノ爲乗船請求書附錄第一號其ノヲ調製シ
運クモ搭載二日前迄ニ内地ニ在リテハ運輸部本部其ノ
他ニ在リテハ乘船地運輸官衙ニ送付スルモノトス

又乗船(便乗)者ハ乗船前日午後出帆スル場合ニハ當日午前迄ニ乗船地
ニ到着シ運輸官衙ニ届告スルヲ要ス但シ單獨出張者等
ニシテ携行荷物ノ少量ナル者又ハ乘船地附近衛戍地ヨ
リ出發スル者ハ若干時間前ニ到着スルコトヲ得

第十七條 船室ノ等級ハ左記各號ニ依ル但シ軍隊輸送ノ
場合ニ在リテハ船舶輸送勤務令ニ準據スヘシ

- 一 軍人ニ在リテハ士官以上一等又ハ二等、准士官ハ
二等、下士以下ハ二等又ハ三等
- 二 軍屬ニ在リテハ高等官ハ一等又ハ二等、判任官一
等ハ二等、判任官二等以下ハ三等、待遇者ハ之ニ

準ス

三 家族及宰領者等ニ在リテハ前各號ニ準シ從者ハ三
等トス

運輸部ハ船室ノ都合又ハ患者ノ病況等ニ依リ前項各號
ノ等級ヲ變更スルコトヲ得

第十八條 患者輸送ハ病院船便アル場合ノ外第十一條各
號ノ船舶ヲ使用シ必要ニ應シ運輸部ニ於テ適當ノ衛生
部員ヲ附スルヲ例トス但シ中支那方面ニ於ケル患者還
送ノ場合ニ在リテハ發送部隊トノ協議ニ依リ其ノ一方
ヨリ附スルモノトス

第十九條 患者輸送ノ場合ニ在リテハ輸送請求者ヨリ患
者ノ階級、員數其ノ病類別收容上特ニ注意ヲ 附添看護
者ノ有無又ハ要否及乘船地ヲ關係運輸部ニ豫報スルモ
ノトス

第二十條 後送シタル患者ハ之ヲ上陸地最寄衛戍病院ノ
出張員ニ引渡スヘシ

第二十一條 第十三條第一號該當者ノ乘船地及上陸地ハ
内地ニ在リテハ神戸、宇品又ハ門司ノ内本人ノ出發又
ハ到着ニ最モ近キ場所特ニ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラストシ朝鮮、臺
灣、滿洲、北支那、青島ニ在リテハ其ノ船舶寄港地中
本人ノ發着ニ最モ便利ナル場所トス

特別事情ニ依リ前項ニ依ラス他ノ寄港地ニ於テ乘船又ハ上陸ヲ爲サムトスル者ハ所屬部隊ヨリ豫メ通知スルカ又ハ命令書若ハ證明書ヲ以テ運輸部ニ申出ツルモノトス

第二十二條 第十三條第一號、第十四條及第十五條該當者ハ被服、家具、書籍、日用品等各自ニ必要ナル物品ニ限リ左記定量以內ヲ携行スルコトヲ得但シ必要アル場合ハ貨物ハ之ヲ別送スルコトヲ得

一 赴任等ノ場合ニ在リテハ將官、同相當官ハ百五十貫目、上長官ハ百二十貫目、士官ハ百貫目、准士官ハ七十貫目、下士以下ハ五十貫目トシ軍屬及傭役者ハ之ニ準ス

二 前號ノ者家族ヲ携行スルトキハ定量ノ三倍、家族ノミナルトキハ定量ノ二倍

三 赴任以外ノ者ハ定量ノ二分ノ一

第二十三條 運輸部ハ軍隊及軍需品ノ輸送ニ在リテハ輸送券^{附錄第二號樣式}ヲ監督將校又ハ船長ニ第十三條第一號該當者ニ在リテハ乘船券^{附錄第三號樣式}ヲ第十四條及第十五條

該當者ニ在リテハ便乘券^{附錄第三號樣式}ヲ本人又ハ引卒者ニ渡スヘシ但シ第十三條第一號該當者ニシテ定期船ノ發

著日定期ニ違ヒタルトキ又ハ正當ノ事由ニ依リ定期船以外ノ船舶ニ乘船シタルトキハ證明書^{附錄第四號樣式}ヲ交付スルモノトス

第二十四條 第十三條第二號ノ物品ヲ追送又ハ還送スル場合ニハ差出人ヨリ現品及輸送請求書^{附錄第一號}ヲ其ノ發送運輸官衙ニ送付スヘシ

前項物品ノ重量ハ一人ニ付將校、同相當官ハ三貫目以內、准士官、下士ハ二貫目以內、兵卒ハ一貫目以內トシ其ノ輸送回數ハ一月一回トス軍屬、傭役者ハ之ニ準ス

第二十五條 第十三條第三號ニ依リ酒保品ノ追送ヲ運輸部ニ委託セムトスルトキハ當該部隊ハ輸送請求書^{附錄第一號}ヲ其ノ

一様式ヲ調製シ需用月ノ約三十日前其ノ輸送ヲ運輸部本部ニ請求スヘシ但シ其ノ輸送回數ハ一月一回トス酒保品ノ輸送請求書ハ已ムコトヲ得サル場合ニハ當該部隊ニ於テ先ツ名稱、員數ノミヲ記入シテ運輸部本部ニ送附シ現品發送ノ際留守部隊又ハ物品供給者等ヨリ明細書^{名稱、員數、捆包數、才、重量、價格ヲ記載ス}ヲ運輸部本部ニ差出サシムルコトヲ得

前項酒保品ノ量目ハ附表其ノ一ニ依ル

第二十六條 運輸部ニ於テ前二條ノ輸送品ヲ受取りタルトキハ便船毎ニ届先最寄ノ運輸部ニ送付スヘシ但シ必

要アルトキハ捆包ヲ解キ検査ヲ爲スヘシ

第二十七條 輸送物件ノ授受ハ搭載地又ハ揚陸地ノ陸上ニ於テ行フモノトス但シ搭載揚陸ノ費用ヲ運輸部ニ於テ負擔セサル場合ニハ本船ニ於テ授受スルコトヲ得前項ニ依リ受領シ難キ場合ニハ運送店等ニ託シ運賃先拂ノ方法ヲ以テ揚陸地ヨリ受領者所在地又ハ其ノ附近ノ部隊送付方ヲ運輸部ニ依託スルコトヲ得

第二十八條 貴重品ノ輸送ニハ宰領者ヲ附スルヲ例トシ酒保品ノ輸送宰領者ハ請求部隊毎ニ一名ニ限ル

第三章 鐵道輸送

第二十九條 鐵道輸送ハ陣中要務令鐵道軍事供用令及鐵道軍事輸送規程ニ依リ施行スルモノトス但シ人馬物件ノ數量一車未滿ナルトキハ之ニ依ラサルコトヲ得

第三十條 輸送途中ニ於ケル人馬ノ給養ハ運輸部ノ指定シタル停車場ニ於テ之ヲ行フモノトス但シ運輸部ヨリ指定ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第四章 經理

第三十一條 軍隊輸送中ノ給養ハ左ノ各號ニ依ル

一 船舶輸送ニ在リテハ糧食ノ供給ハ船長ノ擔任トシ其ノ經費ハ當該部隊ノ支辨トス馬糧ハ部隊自ラ之ヲ調辨シテ乗船スルモノトス但シ其ノ準備ヲ運輸

部ニ委託スルコトヲ得

二 鐵道輸送ニ在リテハ給養ハ總テ當該部隊ノ擔任トス但シ其ノ準備ヲ鐵道沿線ノ最寄部隊ニ依託スルコトヲ得

第三十二條 第十三條第一號ニ該當スル者ノ船内糧食ノ供給ハ船長之ヲ擔任シ其ノ費用ハ運輸部ノ支辨トシ馬糧ハ運輸部ニ於テ供給スルモノトス

第三十三條 第十四條及第十五條ニ該當スル者ノ船内糧食ノ供給ハ船長ノ擔任トシ其ノ費用ハ各自船長ニ仕拂フモノトス

第三十四條 第三十一條ニ於ケル食料額ハ陸軍旅費規則第五表ニ依リ第三十二條及第三十三條ニ於ケル船内食料額並馬糧額ハ附表其ノ二ニ依ル

第三十五條 第四條ニ依リ使用スル人員ノ爲特ニ要スル費用ハ總テ運輸部ノ支辨トス

第三十六條 移出入貨物ニ對シ關稅ヲ要スルトキハ其ノ税金ハ輸送請求者ノ支辨トス

第三十七條 人馬物件ノ輸送ニ關スル費用ハ左ノ區分ニ依リ支辨スルモノトス

一 船舶輸送費 搭載、揚、陸費共、ハ運輸部但シ酒保品、委託購買品及建築材料等ノ搭載、揚陸費ハ本人又ハ當該

部隊

- 二 鐵道輸送ニ於ケル汽車費ハ運輸部其ノ積載、卸下費其ノ他兵營停車場間、停車場海岸間陸上運搬費ハ當該部隊
 - 三 部隊ト共ニ携行セサル軍需品及酒保品ノ陸上運搬費ハ當該部隊
 - 四 第十三條第二號ノ還送品及追送品ノ陸上運搬費ハ本人又ハ差出人
- 税關所在地外ニ於テ搭載、揚陸スヘキ貨物ヲ税關所在地ニ於テ検査ノ爲揚陸、搭載スル費用ハ前項第一號ニ準ス

第五章 衛生

- 第三十八條 軍隊輸送間ノ衛生ハ當該部隊之ヲ擔任ス但シ必要アルトキハ船舶輸送間ノ衛生ニ限リ運輸部ニ於テ擔任スルコトヲ得
- 第三十九條 船舶輸送ノ際運輸部ハ必要ニ應ジ搭載、揚陸スル人馬物件ニ對シ検査、消毒又ハ健康診斷ヲ行フモノトス

第四十條 検査、消毒ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ據ル

第六章 報告及通報

第四十一條 運輸部本部長ハ左記報告ヲ陸軍大臣ニ進達

スヘシ

- 一 特ニ令達セラレタル輸送ノ計畫輸送實施前
- 二 前號輸送ノ實施詳報少數ノ人馬物件ノ輸送ニ在輸送終了後
- 三 各船舶輸送數量表附錄第五號樣式 毎月盡日調
- 四 船舶(鐵道)輸送數量表附錄第六號樣式 毎年十二月盡日調
- 第四十二條 運輸部本部前條第一號以外ニ多數ノ人馬物件ヲ同時ニ輸送スル場合ニハ豫メ陸軍省ニ通報スヘシ
- 第四十三條 運輸部本部ハ前條ノ外定期船ノ發着ヲ定メ前月中ニ所要ノ部隊ニ通報スヘシ
- 第四十四條 運輸部字品ニ於テ搭載又ハ揚陸スヘキ貨物部隊携行荷物ヲ除クヲ一部借上船ニ搭載シタルトキハ其ノ品目ヲ門司税關ニ通報スヘシ
- 第四十五條 在朝鮮運輸部ハ朝鮮ニ於ケル移入貨物部隊携行荷物ヲ除クノ品目、數量、價格其ノ他ノ要項ヲ當該地又ハ最寄ノ税關ニ通報スヘシ
- 第四十六條 師團交代輸送其ノ他大ナル輸送ニ在リテハ輸送部隊長ハ輸送ニ關スル意見ヲ輸送終了後陸軍大臣ニ提出スヘシ

(附錄略ス)

●陸軍軍人軍屬鐵道乘車及軍馬軍需品輸送手續

大正二年三月十三日
陸軍省告示第五號

(一部改正) 大正三年八月陸軍省告示第七號

陸軍軍人軍屬鐵道乘車及軍馬、軍需品輸送手續左ノ通定

陸軍軍人軍屬鐵道乘車及軍馬、軍需品輸送手續

第一條 明治三十九年九月遞信省告示第四百三十二號及私設鐵道法第六十九條ニ依ル陸軍軍人軍屬ノ鐵道乘車及軍馬軍需品ノ輸送ハ本手續ニ依ルモノトス

第二條 本手續ニ依リ乘車シ又ハ軍馬、軍需品ヲ輸送セムトスル者ハ鐵道乘車證若ハ鐵道乘車證明書ヲ所持スルヲ要ス

第三條 鐵道乘車證ハ陸軍軍隊、官衙、學校ニ於テ第一様式ニ據リ調製シ發行擔任者ヲ定メ所要ノ事項ヲ記入シ單獨旅行ニ在リテハ本人ニ、部隊旅行ニ在リテハ引率者ニ、軍馬、軍需品ノ輸送ニ在リテハ輸送擔任者ニ各一葉ヲ交付ス

前項ノ發行擔任者ハ各部隊ノ副官若ハ之ニ相當スル高等官トス

第四條 鐵道乘車證明書ハ市町村長東京市、京都市、大阪市、名古屋市ニ在

リテハ區長市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テ第二様式ニ在リテハ之ニ準スヘキモノ以下同シ
ニ據リ調製シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ所要ノ事項ヲ記入シ各一葉ヲ本人ニ交付ス

但シ充員召集ノ場合ニ在リテハ所要事項ヲ記入セサルモノヲ交付シ本人ヲシテ記入セシムルコトヲ得

- 一 現役兵、入營ノトキ
- 二 召集條例ニ依リ召集ニ應スルトキ
- 三 簡閱點呼ニ參會スルトキ
- 四 見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、士官候補生、主計候補生、一年志願兵及陸軍諸生徒入隊、入校ノトキ
- 五 待命、休職、停職、豫備役、後備役ノ者再ヒ現役ニ服シ又ハ現職ニ就クトキ
- 六 豫後備役將校團、主計團、軍醫團、獸醫團ノ團員ニシテ當該團ノ條例、規則ニ依リ施行スル研究會、演習會、集會ニ參列スルトキ
- 第五條 現役軍人ヒシテ待命、休職、停職、歸休ト爲リ若ハ豫備役、後備役、補充兵役、國民兵役ニ編入セラ

レ又ハ入營ノ際施行スル身體検査ノ結果歸郷スルトキ召集中ノ軍人召集解除ノトキ其ノ他在郷軍人ニシテ陸軍ノ用務ニ服シ現役軍人ニ準シ得ヘキ場合ニ在リテハ鐵道乘車證ヲ交付スルコトヲ得

第六條 乘車證又ハ鐵道乘車證明書ニ記載スル乘車等級ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 將校、同相當官、高等文官、同待遇者 一 等若ハ二等
- 二 准士官、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官 二 等若ハ三等
- 三 下士、列任文官、同待遇者、士官候補生、主計候補生、依託學生、依託生徒、陸軍諸生徒、兵卒、雇員、傭人 三 等

前項ノ等級ハ相當客車ノ設ナキトキ又ハ本人ノ希望アルトキハ劣等級ト爲シ公務上ノ必要アルカ又ハ重症患者及其ノ附添看護者等已ムヲ得サル事由アルトキハ優等級ト爲スコトヲ得但シ優等級ト爲ス場合ニ在リテハ發行擔任者ニ於テ鐵道乘車證ノ餘白ニ其ノ事由ヲ證明スルモノトス

第七條 軍需品輸送ノ場合ニ在リテハ鐵道乘車證ニ其ノ品種、箇數、斤量及小荷物扱、速達便扱、通常斤扱、同噸扱、貸切扱等ノ區分ヲ記載スヘシ但シ乘車證ニ之ヲ列記シ能ハサルトキハ別紙ニ記載シ添付スルコトヲ得

第八條 鐵道乘車證、鐵道乘車證明書ハ某地ニ往復スルトキ、旅行各地ニ互リ汽車ノ乗替ヲ要スルトキ又ハ途中下車ヲ要スルトキ等必要アルトキハ本人ノ請求ニ依リ豫メ所要ノ枚數ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ乘車區間ニ限リ本人ヲシテ記入セシムルコトヲ得但シ往復用トシテ二枚以上ノ乘車證明書ヲ交付シ得ルハ第四條中第六號ニ該當スル場合ニ限ル

第九條 鐵道乘車證ヲ受ケムトスル者ハ本人所屬ノ陸軍軍隊、官衙、學校ニ、鐵道乘車證明書ヲ受ケムトスル者ハ召集令狀、現役兵證明書、六週間現役兵證書其ノ他入營、入隊、入校等ヲ證明スヘキ文書ヲ示シ本籍地又ハ居住地ノ市町村長ニ請求スヘシ

第十條 鐵道乘車證ヲ紛失シタルトキ又ハ臨時之ヲ要スルトキハ附近ノ陸軍軍隊、官衙、學校ニ就キ之ヲ請求スルコトヲ得

第十一條 鐵道乘車證明書ニ依リ乘車スル場合ハ召集令狀其ノ他入營、入隊、入校等ヲ證明スヘキ文書ニ自何驛至何驛ノ記入ヲ爲シ(辭令ヲ差出ス場合ニハ別紙ニ記載シ貼付ス)證明書ト共ニ乘車驛ニ差出シ令狀等ニ出札擔務者ノ認印ヲ受ケヘシ

第十二條 鐵道乘車證、鐵道乘車證明書ヲ紛失シタルト

キハ其ノ券面、番號、乘車區間等必要事項ヲ速ニ發行
部隊又ハ市町村長及最寄停車場ニ届出ツヘシ

第十三條 鐵道乘車證、鐵道乘車證明書不用ニ歸シタル
トキハ直ニ發行部隊又ハ市町村長ニ返付シ發行部隊又
ハ市町村長ニ於テ燒却スルモノトス

第十四條 本手續ニ依リ乘車スル者ノ無賃携帶スルヲ得
ヘキ手荷物ノ定限及限外手荷物竝個人托送貨物ニ對ス
ル賃金ハ通常乘客ニ同シ

附則

本手續ハ四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ單獨旅行ノ鐵道乘車證及鐵道乘車證明書ハ調製濟
ノモノニ限リ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

本手續ハ朝鮮、臺灣、滿洲鐵道ニ之ヲ準用ス但シ鐵道乘
車證明書ハ本籍地ノ市町村長ヨリ交付ヲ受クルモノトス
當分ノ内南滿洲鐵道株式會社所屬ノ鐵道ニ於ケル軍人軍
屬乘車等級ハ一級宛繰上ケ三等乘車賃金ハ半減セサルモ
ノトス

明治三十六年陸軍省告示第三號陸軍軍人軍屬乘車竝物品
輸送手續ハ之ヲ廢止ス

(樣式略ス)

●海軍軍人軍屬鐵道乘車竝物品輸送手續

明治三十七年十一月二十四日
海軍省告示第二十八號

明治三十九年九月海軍省告示第一三號、四〇年
一二月同第一二號、四一年五月同第六號、四二
年五月同第八號、大正元年八月同第一號、二年
三月同第四號、三年三月第三號

(一部
改正)

海軍軍人軍屬鐵道乘車竝物品輸送手續左ノ通改正ス

海軍軍人軍屬鐵道乘車竝物品輸送手續

第一條 海軍軍人軍屬明治三十九年九九遞信省告示第四百
三十二號竝私設鐵道法第六十九號ニ依リ往復スルトキ
及物品ヲ輸送スルトキハ所屬ノ各部艦團ニ於テ左ニ掲
テル樣式ノ證券ヲ附與ス

第二條 證券ハ軍人軍屬ノ單獨旅行ニ在テハ各本人ニ隊
伍旅行及物品輸送ニ在テハ引率者若ハ輸送擔任者ニ各
一葉ヲ附與ス

隊伍旅行ノトキハ引率者ノ官職氏名ノ外ニ一行ノ人員
ヲ記入シ客車等級ヲ異ニスル場合ニ於テハ客車等級毎

ニ其ノ人員ヲ區分スヘシ

物品輸送ノトキハ發送部艦團名品名箇數、重量及取扱種別ヲ記入シ一時數量ノ物品ヲ輸送シ證券面ニ列記シ能ハサルトキハ別紙ニ記入添附スヘシ

第三條 證券ハ各部艦團ニ於テ所要ノ數ヲ豫定シ東京所
在各艦ハ海軍省經理局ニ其ノ他ノ各部艦團ハ最寄海軍
經理部ニ要求シ備ヘ置クヘシ

第四條 證券ハ左ノ區別ニ依リテ之ヲ附與ス但相當客車
ノ設ケナキ等ノ爲メ其等級ヲ變換シ又ハ本人ノ希望ニ
ヨリ之ヲ劣等級ニ變換スルハ妨ナシ

- 一 高等官以上
- 二 候補生、學生、生徒及列任官
- 三 卒、雇員及傭人

第五條 證券ハ某地往復或ハ旅行各地ニ互リ乘換ヲ要ス
ルコトアル者ニハ其ノ度數ヲ量リ豫メ數葉ヲ附與スル
コトヲ得但シ不用トナリタルトキハ速ニ返納スヘシ

第六條 水火盜難等ノ爲證券ヲ失ヒタルカ或ハ臨時證券
ヲ要スルコトアルトキハ附近ノ海軍各部艦團ニ就キ請
求スルコトヲ得

第七條 在郷軍人召集又ハ新兵入團ノトキハ證券ヲ用ヒ
ス減價乘車スルコトヲ得 (簡閱點呼ノ場合ニ在リテハ
往復乘車券購入ノトキニ限

ル)但シ此ノ場合ニ在リテハ各自豫メ左記令狀證書若
ハ文書ノ謄本ヲ作成シ正本ノ端末ニ「自某驛至某驛」ト
記入シ乘車ノ都度正本ハ乘車驛出札擔務者ニ示シ認印
ヲ受ケ謄本ハ之ヲ交付スヘシ

- 一 在郷軍人ニ在リテハ召集令狀若ハ點呼令狀
- 二 志願兵ニ在リテハ採川證書
- 三 徵兵ニ在リテハ現役兵證書若ハ補充兵證書
- 四 前三號ノ令狀若ハ證書ヲ證明スル爲官吏公吏ノ作
成シタル文書

第八條 此ノ手續ニ依リ減價乘車ノモノト雖モ手荷物賃
金ノ定限ハ尋常乘客ニ同シ

附 則

第九條 本手續ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス
第十條 (削除)

●軍隊及軍需品輸送ノ 際稟伺ヲ要セス專決 處分及報告方

大正三年八月二十七日
內務省訓令第十二號

廳 府 縣

時局ニ際シ軍隊及軍需品輸送ノ便チ圖ル等軍國ノ目的ヲ達スル爲急施ヲ要スル事項ニシテ左ニ掲グルモノハ主務大臣ニ稟伺ヲ要セス其ノ應限リ專決處分シ直ニ其ノ顛末ヲ報告スヘシ

- 一 棧橋ノ架設、港灣ノ浚渫、浮標ノ設置其ノ他之ニ類スル港灣工事ノ一時施設
- 二 橋梁及棧橋ノ架設、渡船ノ設置其ノ他之ニ類スル河川工事ノ一時施設
- 三 鐵道及港津ノ聯絡設備ニ關スル軌道工事ノ一時施設並軌道車輛ノ臨時數車連結
- 四 官有地ノ一時使用

●軍人軍屬旅行行程規則

明治二十三年六月五日
陸達第百十五號

則

(一部改正) 明治三十三年四月陸達第二八號

軍人軍屬旅行々程規則左ノ通定ム

軍人軍屬旅行々程規則

第一條 軍人軍屬公事ノ爲メ旅行スルトキ順路ニ汽車路海路ノ便アルモノハ汽車路ニ依リ又陸路ニ汽車ノ便ナ

クシテ海路ノ便アルモノハ海路ニ依ルヘシ若シ止ヲ得サル事情アリ本條規程ノ便路ニ從ヒ離キモノハ長官隊長ノ認可ヲ請フヘシ

第二條 軍人軍屬公事旅行一日ノ行程ハ實際ノ經路ニ從フ但汽車路ハ七十哩他ノ陸路ハ十里海路ハ五十海里ヲ以テ最下限トス

臺灣ニ在テハ前項但書ニ依ラス宿泊地ヲ指定シテ旅行セシムルコトヲ得

第三條 軍人軍屬私事旅行ニ就キ休暇ヲ願フトキハ別ニ往復日數ヲ願書ニ記載セシメ休暇ヲ許可スルモ長官隊長ハ行路舟車ノ便否ヲ案シ之ヲ許可スヘシ但下士卒ノ如キ親族ヨリ願書ヲ差出ス者ニ在テハ本文往復日數ハ長官隊長ニ於テ之ヲ定メ本人ヘ達スヘシ

第四條 第一條第二條第一項ニ依リ旅行スルモ旅費給與ノ方法ハ陸軍旅費規則ニ依ル若シ一日行程陸軍旅費規則第十一條ニ定ムル所ニ滿タサル爲ニ生ヌル超過ノ日數ハ日當宿泊料ヲ給セス

●下士卒轉勤轉乘ノ旅行延著事故届出方

明治三十三年五月十九日
海軍省令第十號

下士卒轉勤轉乘ノ旅行中已ムテ得サル事故ノ爲メ指定期限内ニ到達シ能ハサル場合ニ在テハ速ニ其ノ旨新所屬長ニ届出且左ノ書類ヲ得テ到達ノ上之ヲ差出スヘシ
汽船若クハ汽車ニ關スル事故ナルトキハ船長若クハ驛長ノ證明書
傷疾若クハ疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書
其他ノ事故ナルトキハ其地ノ市區町村長ノ證明書
上陸外出中ニ係ル者亦前項ニ準ス

●軍人軍屬等公用證アル者鐵道運賃低減ノ件

明治三十九年九月二十八日
遞信省告示第四百三十二號

公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人軍屬及警察官吏又ハ軍馬銃砲彈藥糧食被服陣具工銀兵器且天幕等ニシテ公用タルコトヲ證スル通券アルモノ竝囚徒及監守官吏ハ來十月一日ヨリ官設鐵道ニ於テ運賃半價ヲ以テ輸送スヘシ但輸送手續ハ私設鐵道ニ關スル規定ニ準シテ之ヲ取扱フ

●轉職就職者出發規程

大正四年三月三十一日
軍令陸第三號

朕轉職就職者出發規程ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス

轉職就職者出發規程

第一條 陸軍軍人軍屬ニシテ轉職又ハ就職スルトキ新舊職務ノ地又ハ現住地ト就職地トヲ異ニスル者ハ特ニ規定アルモノノ外辭令受領ノ翌日ヨリ十日以内ニ出發スルモノトス但シ朝鮮臺灣及支那ニ赴任スル者ハ十五日以内其ノ他ノ外國ニ赴任スル者ハ三十日以内トス以上各地相互間竝以上各地ヨリ内地ヘノ轉職就職ニ付亦同シ
營内居住ノ下士卒ニ在リテハ前項ノ期間ハ之ヲ三日以内トス

第二條 大(公)使館附武官及外國(滿洲ヲ除ク)ニ於テ勤務ニ服スル軍隊司令官又ハ獨立隊長(各地分遣隊長ヲ除ク)ニシテ他ニ轉職スル者ニ在リテハ其ノ後任者到者スル迄前職務ヲ執行シ事務引繼ノ後直ニ出發スルヲ例トス

第三條 轉職者ニ關シ必要アルトキハ舊所屬部隊長ハ新所屬部隊長ニ協議シテ若干日又ハ後任者到者事務引繼迄其ノ出發ヲ延期セシメ前職務ヲ執行セシムルコトヲ得

第四條 第二條及第三條ニ規定スル轉職者ニシテ前職務ヲ執行スル者ハ某職事務取扱某ト稱ス

第五條 第二條乃至第四條ノ規定ハ待命、休職、豫備役又ハ後備役編入ニ依リ所在地ヲ離ルル場合ニ之ヲ準用ス但シ第二條又ハ第三條ヲ準用スル場合ニ在リテハ舊所屬部隊長ニ於テ其ノ日數ヲ豫定シ理由ヲ具シ陸軍大臣ノ許可ヲ受クルモノトス

第六條 本規程ハ任務ノ變更ニ依リ任地ヲ轉スル者及外國派遣者ニ之ヲ準用ス

●陸軍軍人軍屬戰時ニ

於ケル轉職就職者出

發方

明治三十八年四月十五日
陸達第二十四號

戰時ニ於ケル轉職就職者ノ出發ニ關シテハ明治三十五年二月陸達第八號ニ據ルノ外尙左ノ通心得ヘシ

- 一 戰時ニ於ケル轉職就職ノ命課ハ遠隔セル場合ニ在リテハ電報ヲ以テ傳達スルコトアリ此ノ電報ハ辭令ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス
- 二 陸軍軍人軍屬前項命課ノ電報若ハ辭令ヲ受領シタルトキハ遅クモ五日以内ニ出發スルモノトス

●軍人軍屬赴任出張等ノ際出發日限

明治二十年四月二十八日
海軍省訓令第四十五號

(一部改正) 明治三十一年一月海達第一四二號
海軍一般

軍人軍屬新任若ハ轉職轉勤及各地在勤出張等拜命又ハ辭令拜受前ト雖モ官報ニテ承知ノ上ハ其ノ節ハ特ニ指定スルトキヲ除クノ外辭令拜受ノ日ヨリ一週間内ニ出發スル儀ト心得ヘシ

但第三條備置ニ於テ解裝事業執行中轉職轉勤等拜命ノ節ハ右事業終了後一週間内ニ出發スル儀ト心得ヘシ

●陸軍現役軍人軍屬等 及陸軍ノ用務ヲ以テ 旅行スル在郷軍人ノ 減價乗船ニ關スル件

明治四十五年五月十五日
陸軍省告示第九號

陸軍軍人軍屬乗船手續左ノ通定ム

陸軍軍人軍屬乗船手續

第一條 本手續ハ陸軍現役軍人軍屬諸生徒及陸軍ノ用務ヲ以テ旅行スル在郷軍人ニシテ日本郵船株式會社又ハ大阪商船株式會社所有汽船ニ減價乗船セムトスル者ニ之ヲ適用ス

第二條 陸軍軍人軍屬諸生徒及陸軍將校乗用馬匹馬丁輪共

送者ニシテ乗船證券別記ヲ携帯スル者ハ船賃定價ノ二割引ヲ以テ乗船スルコトヲ得但シ馬匹輸送ニ要スル馬箱ハ將校ノ自辨トス

第三條 乗船證券ハ本人所屬ノ陸軍官衙、軍隊又ハ學校ニ於テ調製交付スルモノトス但シ外國ニ在リテハ豫メ陸軍省ヨリ在外大(公)使館附武官又ハ駐劄武官ニ配賦シ置キ該武官ヨリ之ヲ交付ス

第四條 本手續ニ依リ乗船スル者ニ對スル船室ノ供給其ノ他無貨攜帶スルヲ得ル手荷物ノ制限又ハ制限外ナル手荷物ノ運賃ハ普通船客ノ場合ト同様トス

第五條 陸軍官衙、軍隊、學校等ニ乗船證券ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ軍人軍屬及諸生徒ニ在リテハ證券ニ番號、船室等級、官氏名等必要ノ事項ヲ記入シ部隊名ヲ署シ部隊印ヲ捺シ本人ニ交付スヘシ但シ行軍其ノ他多數同行ノ場合ニ在リテハ別ニ其ノ人員ニ對スル官氏名調書ヲ添附シ證券面ニハ各等船室相當ノ等級人員ノミヲ記載スルコトヲ得

前項ノ證券ハ一人一葉トシ證券記載ノ者ノ外使用スルコトヲ得ス但シ馬匹輸送ニ在リテハ證券一葉ヲ以テ馬丁數名馬匹數頭ヲ乗船セシムルコトヲ得

第六條 船室ノ等級ハ左ノ區分ニ依ル但シ乘船證券請求者ノ希望アリタルトキハ正常ト認メタル場合ニ限り之ヲ變更スルコトヲ得

一 内國、朝鮮、臺灣、樺太、滿洲、北清内又ハ相互間ノ旅行ニ在リテハ士官以上ハ一等又ハ二等、准士官ハ二等、下士以下ハ三等トス軍屬及馬丁亦之ニ準ス

二 外國旅行 前項ニ係ルモノヲ除クニ在リテハ判任官以上ハ一等傭員ハ二等トス

船室ノ等級ハ豫メ乘船證券ニ指定スル船室兩員ナルカ又ハ其ノ船室ノ設ケナキトキ其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ乘船者及會社相互ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條 水火盜難等ニ依リ乘船證券ヲ亡失シタルトキハ其ノ券面番號及事由ヲ速ニ之ヲ受領シタル部隊ニ届出テ且日本郵船株式會社及大阪商船株式會社ニ通報スヘシ

第八條 乘船證券ヲ亡失シ又ハ臨時該證券ヲ要スルトキハ最寄陸軍官衙、軍隊又ハ學校ニ請求シ交付ヲ受クルコトヲ得

第九條 在郷軍人召集ノトキ又ハ新兵入營ノトキハ證券

ヲ用キス其ノ召集令狀、現役兵證書又ハ其ノ召集若ハ入營ヲ證明スヘキ文書ヲ示シ又ハ憲兵若ハ警察官ノ證明ニ依リ減價乘船スルコトヲ得

(雜形略ス)

●軍人傷痍記章ヲ有スル者及其ノ附添人等國有鐵道無賃乘車手續

大正三年六月五日
陸軍省海軍省告示

軍人傷痍記章ヲ有スル者及其ノ附添人並廢兵院入院若ハ退院ノ准士官以上及其ノ附添人國有鐵道無賃乘車手續左ノ通定ム

軍人傷痍記章ヲ有スル者及其ノ附添人並廢兵院入院若ハ退院ノ准士官以上及其ノ附添人國有鐵道無賃乘車手續

第一條 軍人傷痍記章ヲ有スル者及其ノ附添人並廢兵院入院若ハ退院ノ准士官以上及其ノ附添人ニシテ國有鐵道ニ無賃乘車セムトスル者ノ乘車ハ本手續ニ依ルモノ

トス

第二條 軍人傷痍記章ヲ有シ軍人恩給法第九條第一號乃至第四號ニ該當スル者ニハ本人ノ請求ニ依リ鐵道院ニ於テ片道又ハ往復鐵道乘車證ヲ交付ス

軍人傷痍記章ヲ有シ軍人恩給法第九條第一號又ハ第二號ニ該當スル者單獨ニテ旅行スルコト能ハス附添人ヲ要スルトキハ其ノ附添人ノ無賃乘車ハ一名ニ限ル

第三條 軍人傷痍記章ヲ有シ軍人恩給法第九條第五號又ハ第六號ニ該當スル者ニハ療兵院ニ入院若ハ療兵院ヲ退院スル場合ニ限リ本人ノ請求ニ依リ鐵道院ニ於テ片道鐵道乘車證ヲ交付ス

第四條 准士官以上ニシテ療兵院ニ入院若ハ療兵院ヲ退院スル場合ニ在リテハ本人ノ請求ニ依リ鐵道院ニ於テ片道鐵道乘車證ヲ交付ス

第二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 第二條及第三條ニ依リ鐵道乘車證ヲ以テ乘車スル者ハ軍人傷痍記章ヲ裝著シ鐵道係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ傷痍記章授與證書ノ査閱ニ應スヘキモノトス

第六條 鐵道乘車證ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ請求書別記ヲ鐵道院ニ提出スルモノトス但シ第三條及第四條

ニ該當スル者ニ在リテハ請求書ニ居住地ノ市町村長
東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在リテハ區長、
市制町村制ヲ施行セサル地方ニアリテハ市町村長ニ準
スヘキモノ 又ハ療兵院長ノ療兵院入院若ハ退院ノ與否
以下同シ 證明ヲ要ス

第七條 本手續ニ依ル乘車等級ハ三等トス但シ第四條ニ
該當スル者及其ノ附添人ニ限リ本人ノ請求ニ依リ二等
トナスコトヲ得

第八條 本手續ニ依リ乘車スル者ノ無賃攜帶スルヲ得ヘ
キ手荷物ノ定限及定限外手荷物竝個人託送貨物ニ對ス
ル賃金ハ通常乗客ニ同シ

第九條 本鐵道乘車證ヲ有スル者ニシテ鐵道院ノ定メ
ル諸規則ニ違反シタルトキハ事情ノ如何ヲ問ハス同院
ニ於テ該乘車證ヲ回收シ爾後再ヒ之ヲ交付セサルモノ
トス

附 則

本手續ハ大正三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

樣式

鐵道乘車證請求書(用紙半紙白)

(紙又ハ膠紙)

本人
本籍地

現住所
 傷痍記章授與證書番號 兵籍ニ在リシ 氏 名
 甲(乙)第 號 トキノ官等級 氏 名
 年 齡

附添人(附添人ヲ要スルトキ)

氏 名

年 齡

何々(保養、轉地療養、療兵院入院若ハ退院等)ノ爲
 自何驛 片道(往復)乘車致度候ニ付 自何年何月何日 何日
 至何年何月何日 至何年何月何日 何日
 間何等級用鐵道乘車證交付相成度此段及請求候也

右本人

年 月 日

氏 名 印

鐵道院總裁氏名殿

(市、町、村長又ハ療兵院長ノ奥書證明ヲ要スルトキ)
 右之通相違無之候也

年 月 日

市、町、村長 氏

名 印

(療兵院長 氏

名 印)

◎同上國有ニアラサル
 鐵道乘車並汽船乘船

手續

大正三年十一月五日
 陸軍省海軍省告示

軍人傷痍記章ヲ有スル者及其ノ附添人國有ニアラサル鐵
 道乘車並汽船乘船手續左ノ通定ム

軍人傷痍記章ヲ有スル者及其ノ附添人國有ニアラサ
 ル鐵道乘車並汽船乘船手續

第一條 軍人傷痍記章ヲ有スル者及其ノ附添人並療兵院
 入院若ハ退院ノ准士官以上及其ノ附添人ニシテ左記官
 衙及會社ノ管理又ハ經營スル鐵道ニ乘車セムトスル者
 ハ無賃乘車スルコトヲ得

- 朝鮮總督府鐵道局
- 臺灣總督府鐵道部
- 南滿洲鐵道株式會社
- 東武鐵道株式會社
- 成田鐵道株式會社
- 中越鐵道株式會社
- 南海鐵道株式會社

- 博多灣鐵道株式會社
- 東上鐵道株式會社
- 愛知電氣鐵道株式會社
- 尾西鐵道株式會社
- 播州鐵道株式會社
- 千葉縣營輕便鐵道
- 中國鐵道株式會社

- 銚子遊覽鐵道株式會社
- 中遠鐵道株式會社
- 越後鐵道株式會社
- 富士身延鐵道株式會社
- 初瀬鐵道株式會社
- 伊豫鐵道株式會社
- 岩手輕便鐵道株式會社
- 井原笠岡輕便鐵道株式會社
- 伊那電車軌道株式會社
- 上武鐵道株式會社
- 川越鐵道株式會社
- 上野鐵道株式會社
- 河南鐵道株式會社
- 高野登山鐵道株式會社
- 小坂鐵道株式會社
- 加太輕便鐵道株式會社
- 湖南鐵道株式會社
- 鹿兒島電氣軌道株式會社
- 釜石礦山輕便鐵道
- 水戶鐵道株式會社
- 淡鐵道株式會社
- 宮崎縣營輕便鐵道
- 宮崎輕便鐵道株式會社
- 松阪輕便鐵道株式會社
- 三河鐵道株式會社
- 長良輕便鐵道株式會社
- 西尾鐵道株式會社
- 名古屋電氣鐵道株式會社
- 青梅鐵道株式會社
- 近江鐵道株式會社
- 大川鐵道株式會社
- 龍崎鐵道株式會社
- 仙北輕便鐵道株式會社
- 島原鐵道株式會社
- 新宮鐵道株式會社
- 下津井輕便鐵道株式會社
- 駿豆電氣鐵道株式會社
- 東讚電氣軌道株式會社
- 輕便鐵道株式會社
- 立山輕便鐵道株式會社
- 龍野電氣鐵道株式會社

氣鐵道

- 藤相鐵道株式會社
- 苫小牧輕便鐵道株式會社
- 武岡輕便鐵道株式會社
- 宇部輕便鐵道株式會社
- 魚沼鐵道株式會社
- 宇島鐵道株式會社
- 吉野鐵道株式會社
- 四日市鐵道株式會社
- 養老鐵道株式會社
- 耶馬溪鐵道株式會社
- 京都電燈株式會社越前電
- 南薩鐵道株式會社
- 兩備輕便鐵道株式會社
- 四佛寺鐵道株式會社
- 日出生鐵道株式會社
- 一畑輕便鐵道株式會社
- 美濃電氣軌道株式會社
- 岐北輕便鐵道株式會社
- 北勢鐵道株式會社
- 長州鐵道株式會社
- 秋田鐵道株式會社

第二條 前條記載ノ者ニシテ日本郵船株式會社又ハ大阪商船株式會社所屬ノ汽船ニ乘船セムトスル者ハ内國諸港間ニ限リ其ノ貸金五割引チ以テ乘船スルコトヲ得

第三條 前二條ノ乘車乘船ニ關スル手續ニ付テハ大正三年六月五日陸海軍省告示國有鐵道無賃乘車手續ヲ準用スルモノトス

●軍隊並砲車輜重車 ニ對シ一般ノ車馬 途上避讓方

明治十八年二月十二日
陸軍省達乙第二十二號

警視廳各府縣 東京府
ヲ除ク

途上ニ於テ軍隊並砲車輜重車ト一般ノ車馬ト行達フ時避讓方ノ儀ニ付内務卿ヨリ別紙之通各地方へ及訓示候趣申來候間爲心得此旨相達候事

(別紙)

途上ニ於テ車馬行達フ時ハ互ニ左方へ避讓スヘキ旨各地方ニ於テ規定有之候處今般陸軍卿ヨリ照會ノ旨モ有之ニ付軍隊並砲車輜重車ニ行達タル時ニ限リ右方へ避讓スヘキ様管下へ告示スヘシ此旨及訓示候也

但一般車馬互ニ左方へ避讓スヘキ規則ト相抵觸セサル様致スヘシ

第十八編 救恤

●陸軍恤兵部條例

明治三十七年三月二十二日
陸達第六十五號

陸軍恤兵部條例左ノ通定メラル

陸軍恤兵部條例

第一條 陸軍恤兵部ハ戰時又ハ事變ニ際シ陸軍大臣必要ニ應シ之ヲ設置ス

第二條 陸軍恤兵部ハ恤兵ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 陸軍恤兵部ニ恤兵監一人部員二人若ハ三人ヲ置ク

恤兵監ハ陸軍佐官部員ハ陸軍佐尉官同相當官ヨリ之ヲ補ス

恤兵部ニ下士列任文官若干人ヲ置ク

部員ハ必要ニ應シ之ヲ増加スルコトヲ得

第四條 恤兵監ハ陸軍大臣ニ隸シ部中一切ノ事務ヲ總理ス

恤兵監ハ恤兵品ノ輸送ニ關シテハ兵站總監ノ區處ヲ受クヘシ

第五條 恤兵監ハ作戰軍ノ情態ヲ明カニシ各高等司令部野戰衛生長官部兵站官衙其他恤兵ヲ主旨トスル結社團體等ト常ニ相連絡シ相互間事情ノ疏通ヲ圖ルヘシ

第六條 部員ハ恤兵監ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第七條 下士判任文官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

明治二十七年達乙第一五六一號陸軍恤兵部編制ハ之ヲ廢止ス

●恤兵金品取扱規程(陸)

明治三十七年二月十二日
陸軍省告示第四號

(一部改正) 明治三十七年二月陸軍省告示第六號、同年三月同第九號、同第一一號、同第一四號、大正三年九月同第八號、同第一一號

恤兵金品取扱規程

第一條 戰時若ハ事變ニ際シ陸軍軍人ヲ慰恤スル爲寄附ノ金員ハ之ヲ其ノ目的ニ使用シ寄贈ノ物品ハ之ヲ配與ス

但シ受理スヘキ寄贈品ハ軍隊ノ需用ト運搬及配與上ノ必要ニ依リ陸軍恤兵部 陸軍恤兵部ヲ開設セサルトニ於テ其種類及數量ヲ限定シ官報ニ之ヲ樹告ス

第二條 恤兵ノ爲金員ヲ寄附セムトスル者ハ第一號書式ノ申出書ニ現金ヲ添ヘ陸軍恤兵部ニ差出スモノトス但シ寄附申出人ノ便宜ニ依リ銀行爲替郵便爲替又ハ電信爲替ヲ以テ送附スルコトヲ得

前項郵便爲替電信爲替ハ東京市麴町郵便局指定トス

第三條 恤兵ノ爲物品ヲ寄贈セムトスル者ハ第二號書式ノ申出書ヲ居住地ノ市町村長 東京市、京都市、大阪市、長、朝鮮ニ在リテハ府尹又ハ郡守、臺灣ニ在リテハ廳長又ハ支廳長、關東州ニ在リテハ民政署長又ハ支署長、外國ニ在リテハナ經テ陸軍恤兵部ニ差出シ其ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第四條 寄附金又ハ寄贈品ハ個人ト數人連合又ハ團體等ノ名義タルトハ寄附者又ハ寄贈者ノ任意トス
連合又ハ團體等ニ在リテハ代表者ノ名義ヲ以テシ且寄附者若ハ寄贈者全員ノ本籍、現住所、族籍、官職(貴族院議員、衆議院議員)、位階、勳爵、氏名及金額又ハ品種、數量等ヲ詳記シタル内譯明細書ヲ添付スルモノトス但シ内譯明細書ヲ添付スル能ハサル場合ニ在リテハ代表者二名ノ名義ト爲シ内譯明細書ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 寄附金及寄贈品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ受理セス

- 一 個人某又ハ部隊ヲ指定シ其ノ他使用ノ方法ヲ特定シタルモノ
 - 二 寄附金ノ申出書壹通ノ金額壹圓未満ノモノ
但シ數人連合等ノ場合ニ在リテハ各一名ノ寄附金額拾錢未満ノモノ
 - 三 寄贈品ノ種類陸軍恤兵部ノ指定以外ノモノ
 - 四 指定ノ品種ト雖申出書壹通ノ數量陸軍恤兵部ノ指定數量未満ノモノ但シ數人連合等ノ場合ニ在リテハ各一名ノ寄贈品價格拾錢未満ノモノ
 - 第六條 陸軍恤兵部ニ於テ寄附金ヲ受領シタルトキハ出納官ヨリ第三號書式ノ受領書ヲ寄附申出人ニ交付スヘシ
 - 第七條 陸軍恤兵部ニ於テ寄贈品ノ申出ヲ承認シタルトキハ該品ヲ受領スヘキ官衙ヲ指定シ第四號書式ノ認可書ヲ寄贈申出人ニ交付シ指定ノ官衙及市町村長ニ通報スヘシ
- 寄附申出人前項ノ認可書ヲ受ケタルトキハ市町村長ニ請求シテ寄贈品ノ點檢ヲ受ケ該品ノ荷造ヲ堅牢ニシ其ノ上面及側面ノ二箇所ニ左ノ如キ荷札ヲ荷造ノ結構ニ依リ直ニ記スルモ妨ナ
ヲ附著シ認可書記載ノ月日限リ指定ノ官衙ニ送付スヘキモノトス

○	何府何市何町何番地	○
	氏	名
某地		
某官衙行		
第何號(認可書番號ヲ記ス)	陸軍用寄贈品何品何程入	

- 前項荷造ニ要スル費用及指定官衙ニ送付スル費用ハ寄贈申出人ノ負擔トス但シ無賃ヲ以テ鐵道運搬ヲ爲スヘキ寄贈物品ニ係ル兩鐵道線接續驛ニ於ケル貨物取扱費用ハ此ノ限ニ在ラス
- 指定官衙ニ於テ寄贈品ヲ受領シタルトキハ第五號書式ノ受領證ヲ寄贈申出人ニ交付シ且其旨ヲ市町村長ニ通知シ同時ニ其品目員數及寄贈申出人ノ住所氏名ヲ陸軍恤兵部ニ通報スヘシ
- 第八條 陸軍恤兵部ハ寄附金ヲ受領シ又ハ寄贈品受領濟ノ通報ヲ受ケタルトキハ其金額又ハ物品及寄附者又ハ寄贈者ノ住所氏名ヲ官報ニ廣告ス
- 第九條 寄附金及寄贈品ハ其ノ申出ヲ爲シタル後金額又ハ品種目等ノ増減又ハ取消ヲ請求スルコトアルモ之ヲ採用セス

第十條 寄贈品ノ申出ヲ爲シタル者ニシテ族籍、住所又ハ氏名等ヲ變更シタルトキハ其ノ都度陸軍恤兵部ニ届出ツルヲ要ス

第十一條 市町村長ハ第七條第一項ニ依リ認可書ヲ受ケタル者ニシテ寄贈ヲ了セサルトキハ其ノ事實ヲ調査シ之ヲ恤兵部ニ通知スヘシ

第十二條 市町村長ハ第七條第二項ニ依リ寄贈品點檢ノ請求アリタルトキハ之ニ應シ包裝又ハ荷札ニ(點檢濟)ノ證明ヲ爲シ若シ腐敗損傷等ニ依リ使用ニ堪ヘスト認メタルトキハ證明ヲ爲サス直ニ其狀況ヲ恤兵部ニ申出ヘシ

第十三條 寄贈品ハ時宜ニ依リ之ヲ檢查シ腐敗損傷等ノ爲軍隊ノ用ニ適セスト認ムルトキハ既ニ與ヘタル認可ヲ取消シ寄贈品ハ之ヲ差出人ニ還付スルコトアルヘシ其ノ荷造不完全ニシテ戦地ニ運搬途中散逸ノ虞アリト認ムルモノ亦同シ

第一號書式

恤兵寄附金申出書

一金 何 圓也

右ハ恤兵ノ爲寄附仕度候間御採用相成度候也

明治 年 月 日

陸軍恤兵部 御中

本 籍何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
現住所何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
華(士)族(平民)
官職(貴族院議員) 位階、勳爵 氏 名
(衆議院議員) (某社)會(團體)長(總代)氏名

第二號書式

恤兵寄贈品申出書

一何々

何程

此價格金何圓何十錢

一何々

何程

此價格金何圓何十錢

右ハ恤兵ノ爲寄贈仕度候間御採用相成度候也

明治 年 月 日

本 籍何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
現住所何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
華(士)族(平民)

官職(貴族院議員) 位階、勳爵 氏 名
(衆議院議員) (某社)會(團體)長(總代)氏名

陸軍恤兵部 御中

(附表略ス)

●恤兵金品取扱規程(海)

大正三年九月十日
海軍省告示第八號

恤兵金品取扱規程

- 第一條 海軍軍人ヲ慰恤スルノ目的ヲ以テ寄附シタル金品ヲ恤兵金トシ寄贈シタル物品ヲ寄贈品トス
- 第二條 恤兵金ヲ寄附セントスル者ハ第一號書式ノ恤兵金寄附申出書ニ現金、海軍省經理局恤兵金出納官吏宛ノ銀行爲替手形、小切手若ハ郵便爲替證書ヲ添ヘ海軍省經理局長ニ差出スヘシ
- 第三條 物品ヲ寄贈セントスル者ハ第二號書式ノ寄贈品申出書ヲ海軍省經理局長ニ差出スヘシ
- 第四條 恤兵金又ハ寄贈品ハ一個人タルト數人聯合又ハ會社團體タルトハ寄附者又ハ寄贈者ノ任意トス但シ數人聯合又ハ會社團體等ニ在リテハ代表者ノ名義ヲ以テスヘシ此ノ場合ニハ内譯明細書ヲ添付シ寄附者又ハ寄贈者全員ノ現住所族籍氏名及金額又ハ品種數量等ヲ細記明確ナラシムヘシ
- 第五條 恤兵金及寄贈品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル

モノハ之ヲ受理セス

一 一個人又ハ艦船部隊ヲ指定シ其ノ他使用ノ方法ヲ特定シタルモノ

二 恤兵ノ申出書一通ノ金額壹圓未滿ノモノ但シ數人聯合ノ場合ニ在リテハ各一名ノ寄附金拾錢未滿ノモノ

三 第十二條ニ指定セル種類以外ノ寄贈品

第六條 海軍省經理局長寄贈ノ申出ヲ認可シタルトキハ第三號書式ノ認可狀ヲ寄贈者ニ交付スルト同時ニ寄贈品ヲ受領スヘキ官衙ニ之ヲ通知スヘシ但シ外國人ノ寄贈品ニ對シテハ認可狀ヲ省略スルコトヲ得

第七條 物品寄贈者ハ前條認可狀ニ於テ指定セラレタル官衙ニ寄贈品ヲ送付スヘシ但シ荷物ヲ送達スヘキ官衙ニ至ルマテノ運搬費ハ寄贈者ノ負擔トス

寄贈品ノ荷造ハ堅牢ヲ旨トシ荷物ノ上而及側面ノ二箇所ニ左ノ如キ荷札ヲ附著スルモノトス但シ荷造ノ狀態ニ依リ荷札ヲ用ヒスシテ荷物ノ外皮ニ記載スルモ妨ナシ

何府何市何町何番地	何縣何郡何村何番地
某地	氏名
何官衙行	
海軍用寄贈品「何箇入」	

第八條 恤兵金出納官吏恤兵金ヲ受領シタルトキハ第四號書式ノ受領證ヲ寄附者ニ交付ス

第九條 寄贈品ヲ受領シタル官衙ハ第五號書式ノ受領證ヲ寄贈者ニ交付シ同時ニ其ノ品目員數及寄贈者ノ氏名等ヲ海軍省經理局長ニ報告スヘシ

第十條 海軍省經理局長恤兵金出納官吏ヨリ恤兵金領收濟ノ報告及寄贈品ヲ受領シタル官衙ヨリ寄贈品領收濟ノ報告ヲ得タルトキハ之ヲ官報ニ廣告ス

第十一條 寄贈品ハ時宜ニ依リ之ヲ検査シ腐敗損傷等ノ爲使用ニ適セスト認ムルトキハ既ニ與ヘタル認可ヲ取消シ寄贈品ハ之ヲ差出人ニ還付スルコトアルヘシ

第十二條 寄贈ヲ認可スヘキ物品ハ概ネ左ノ三種トス其ノ品目ハ海軍省經理局長之ヲ官報ニ廣告ス

糧食品類 綳帶用品類 雜品類

第一號書式 備考 一 用紙ハ適宜タルヘシ
 二 申出人ノ宿所氏名ハ最モ列明ニ記載スルヲ要ス

恤兵金寄附申出書
一金 何 圓也
右恤兵ノ主意ニ依リ寄附仕度候條御採用相成度候也
大正 年 月 日
本籍 何府縣郡市區町村番地
現住所 何府縣郡市區町村番地
華士族平民 何 某
(何々社)(會)(團體)長(總代)氏名
海軍省經理局長氏名宛

第二號書式 備考 一 用紙ハ適宜タルヘシ
 二 申出人ノ宿所氏名ハ最モ列明ニ記載スルヲ要ス
 三 代價ハ現品ノミノ代價ニシテ運搬費等ハ算入セサルモノトス

恤兵物品寄贈申出書

一何々々

此代價金何圓

何程

一何々々

此代價金何圓

何程 何箇

右恤兵ノ主意ニ依リ寄贈仕度候條御採用相成度候也

大正 年 月 日

本 籍 何府縣郡市區町村番地

現住所 何府縣郡市區町村番地

華士族平民 何 某

(何々社)(會)(團體)長(總代)氏名

海軍省經理局長氏名宛

(認可狀、受領證式略ス)

●下士兵卒家族救助令

明治三十七年四月四日
勅令第九十四號

(一部改正) 明治三十八年二月勅令第三七號
朕下士兵卒家族救助令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

下士兵卒家族救助令

第一條 戰役ニ際シ召集セラレタル豫備役後備役補充兵役國民兵役下士兵卒ノ家族ハ其ノ召集中本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ救助ス

第二條 本令ニ於テ家族ト稱スルハ召集ノ當初ヨリ引續キ應召者ト同一ノ家ニ在ル祖父母父母妻子兄弟姉妹ヲ謂フ但シ召集中出生シタル嫡出子ハ召集ノ當初ヨリ其ノ家ニ在ルモノト看做ス

第三條 救助ヲ受クヘキ者ハ下士兵卒應召ノ爲生活スル能ハサル者ニ限ル

第四條 救助ノ程度及方法ハ内務大臣之ヲ定ム

第五條 下士兵卒逃亡シ又ハ三箇月以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ逃亡又ハ刑期中ノ日數ニ等シキ期間救助ヲ停止ス

前項ノ停止ハ公ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ始ム

第六條 下士兵卒死亡若ハ生死不分明トナリタルトキ又ハ傷痍若ハ疾病ニ依リ召集ヲ解除セラレタルトキト雖本令ノ救助ハ仍三箇月之ヲ繼續ス

第七條 本令ノ規定ハ戰役ニ際シ現役ヲ延期セラレ又ハ志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル下士兵卒ノ家族ニ之ヲ準用ス

附則

本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム

●下士兵卒家族救助令

施行規則 明治三十七年四月十二日
内務省令第三號

(一部改正) 明治三十七年五月内務省令第七號、大正三年一月同第二三號

下士兵卒家族救助令施行規則左ノ通定ム

下士兵卒家族救助令施行規則

第一條 下士兵卒家族救助令ニ依リ救助ヲ受ケントスルトキハ一家經理ノ任ニ在ル者若ハ之ニ代ル者ヨリ住所地地方長官ニ願出ツヘシ

前項願出アリタルトキハ地方長官ハ資産ノ程度勞役ノ能否扶養義務者其他救護ヲ爲ス者ノ有無並ニ各種ノ狀況ヲ調査シ其ノ可否ヲ決定スヘシ

第二條 救助ハ生業扶助、現品給與、施療、現金給與等ノ方法ニ依ル

前項救助ハ適當ナル他ノ施設ニ委囑シ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三條 救助ノ額ハ戰死者ノ遺族ニ支給スヘキ扶助料ノ最低額ヲ超ユルコトヲ得ス其支給額ノ標準等ハ被救助者ノ狀況ニ依リ地方長官之ヲ定ム

第四條 救助ヲ受ケタル者自營ノ途ヲ得若ハ他ノ扶助等ヲ受ケルニ至リタルトキハ其狀況ニ依リ救助ノ程度ヲ減少シ又ハ救助ヲ廢止ス

第五條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

第六條 本令中地方長官ノ職務ハ朝鮮ニ於テハ朝鮮總督臺灣ニ於テハ臺灣總督樺太ニ於テハ樺太廳長官之ヲ行フ

●下士兵卒家族救助上

必要事項通報方

明治三十七年四月十七日
陸達第八十五號

(一部改正) 大正三年九月陸達第二九號

下士兵卒家族救助令ニ依リ下士兵卒ノ家族救助上必要ノ事項通報方左ノ通定ム

第一條 聯隊區司令官

(對馬警備隊司令官及沖繩警備隊區司令官ヲ包含ス以下同シ)ハ

其ノ所管内ニ在籍シ下士兵卒家族救助令ニ依リ救助ヲ受ケル家族チ有スル下士兵卒ノ官、等級、本籍及氏名ノ通報チ地方長官ヨリ受ケタルトキハ之ヲ本人所屬部隊長ニ通報スヘシ

部隊長前項ノ通報チ受ケタル際又ハ受ケタル後本人他ニ轉屬シタルトキハ更ニ之ヲ新所屬部隊長ニ通報スルト同時ニ其ノ旨ヲ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第二條 各部隊長ハ前條ノ下士兵卒ニシテ逃亡シ又ハ三箇月以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ其ノ官、等級、本籍、氏名、及事由ヲ本人本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第三條 現役下士兵卒ニシテ現役ヲ延期セラレ又ハ再服役ヲ許可シタル者アルトキハ前條ニ同シ

第四條 聯隊區司令官ハ第一條ニ該當スル下士兵卒ニ係ル下士兵卒家族救助令第五條及第六條ノ事項其ノ他家族救助上必要ノ事項ヲ第一條ニ依リ通報チ爲シタル地方官ニ通報スヘシ

第五條 聯隊區司令官第三條ニ依リ通報チ受ケタルトキハ之ヲ本人本籍地所管ノ地方官ニ通報スヘシ

第十九編 死傷、疾病

●陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則

養者給與規則

明治二十七年十一月
勅令第九十二號

(一部改正) 明治三十八年一月勅令第一四號

朕陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則

第一條 陸軍軍人軍屬ニシテ戰役ニ從事シ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者病院ニ於テ治療ノ後郷里ニ歸鄉療養セシムルトキハ本規則ニ依リ給與ス

第二條 歸鄉療養中手當トシテ軍人ニハ第一喪ノ金額軍屬ニハ本俸三分ノ二ヲ給ス

歸鄉療養チ爲シタル者歸鄉療養ノ期間ヲ過クルモ服役處分決定ニ至ル迄ノ間亦前項ニ同シ

第三條 歸鄉療養者ニハ歸郷ノ際必要ニ應ジ病衣一具ヲ費與ス

傷病ノ狀況ニ依リ簡易ノ補缺器械若クハ副木等ヲ要スルモノハ一回限り之ヲ給スルコトヲ得

第四條 歸郷旅費ハ當該病院所在地ヨリ本籍地若クハ寄留地順路ニ應シ出發ノ際精算拂ト爲シ第二表ノ金額ヲ給ス但途中川留、雪支、船待其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲メ滞在シ其ノ事由確實ナルモノハ日數ニ應シ同表ノ日當ヲ追給ス

傷項策定ノ爲メ召喚ヲ要スルトキモ亦前項ニ準シテ往復ノ旅費ヲ給ス

第五條 歸郷療養中傷病、疾病再發シ地方醫師若クハ地方病院ニ就キ治療ヲ受ケタル者ハ其ノ醫師又ハ病院ノ證明ニ依リ實費ヲ官給スルコトアルヘシ

第六條 其ノ他從來受クル所ノ諸給與ハ第二條ノ給與ヲ受クル期間其ノ支給ヲ停止ス

(附表略ス)

●陸軍軍人軍屬歸郷療養者給與規則細則

明治三十八年一月
陸軍省令第二號

(一部改正) 明治三十八年陸軍省令第一三號

陸軍軍人軍屬歸郷療養者給與規則細則左ノ通改正ス

陸軍軍人軍屬歸郷療養者給與規則細則

第一條 本規則 陸軍軍人軍屬歸郷療養者 第二條ノ手當金ハ傷病疾病者所屬ノ師團若ハ其ノ留守師團ノ經理部ニ

於テ毎月之ヲ支給ス但シ師團ニ屬セサル者ハ總テ陸軍會計監督部ニ於テ支給ス

歸郷療養者ハ毎月末日ニ於テ其ノ月分ノ手當金請求書

第一號ニ市町村長ノ證明ヲ受ケ當該師團經理部又ハ陸軍會計監督部ニ請求スヘシ

歸郷療養者復職復隊又ハ再ヒ陸軍病院ニ入院シタルト

キハ前二項ノ規定ニ依ラズ當該部隊若ハ病院ニ於テ其ノ月分ノ手當金ヲ給ス(三十八年陸軍省令第十三號ヲ

以テ本項追加)

第二條 手當金ハ歸郷ヲ命シタル當日ヨリ休暇終了ノ日

又ハ服役處分決定ノ日迄之ヲ支給ス但シ休暇終了前復職復隊死亡又ハ再ヒ陸軍病院ニ入院シタルトキハ此ノ

當日迄支給ス

日割計算ノ方法ハ月額ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ五捨五入單位ニ止メ支給額ヲ得ルモノトス

第三條 本規則第三條ノ病衣補給器械又ハ副木類ハ歸郷ヲ命シタル病院ニ於テ貸與又ハ支給ス但シ病衣ヲ貸與スル必要ナキ者ニシテ普通被服ヲ所持セサル場合ニ於テハ所屬部隊又ハ師團長指定ノ部隊ヨリ所要被服ノ送付ヲ受ケ之ヲ貸與スルモノトス

前項被服ノ貸與及返納手續ハ明治三十七年陸軍省令第二十七號ニ依ル

第四條 本規則第四條ノ旅費ハ行程三里以上ニ非サレハ之ヲ給セス但シ三里未滿ト雖歩行シ難キ者ニハ車馬料ヲ給ス

旅費計算ノ方法ハ陸軍旅費規則ノ規定ニ依ル

途中ニ於テ川留、露支、船待其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲滞在シタルトキハ其ノ滞在地市町村長ノ證明書ヲ添ヘ日當ヲ請求スルモノトス

第五條 歸郷旅費ハ歸郷ヲ命シタル病院ニ於テ傷項策定ノ爲病院ニ出頭スル場合ノ旅費ハ其ノ策定ヲ爲スヘキ病院ニ於テ支給ス

第六條 本規則第五條ノ治療費ヲ請求セムトスル者ハ請求書第二號ニ地方醫師又ハ地方病院ノ證明書第三號ヲ添ヘ歸郷ヲ命シタル病院ニ差出スヘシ但シ歸郷ヲ命シタル病院閉鎖セル場合ニ在リテハ居住地所管ノ師團司

令部ヲ經テ當該衛戍病院ニ差出スヘシ

病院ニ於テハ前項ノ書類ヲ審査シ正當ト認ムルトキハ治療費ヲ支給スヘシ

第七條 歸郷中病症増進シ陸軍病院ニ於テ治療ヲ爲ストキハ其ノ治療費ハ官給トス

第八條 傷項策定上ノ必要ニ依リ一時陸軍病院ニ宿泊セシムルトキハ其ノ糧食ヲ官給シ日當ヲ給セス

第九條 復職復隊ニ要スル旅費ハ所屬部隊ニ於テ居住地ヨリ部隊所在地迄第四條ノ例ニ依リ陸軍旅費規則第一表ノ旅費ヲ給ス

第十條 歸郷ヲ命シタル病院ハ傷疾疾病者ノ所屬部隊居住地退院月日休暇日及職官氏名等ヲ手當金支給廳ニ通報スヘシ

傷項策定ヲ要スル者ニ在リテハ傷項策定ヲ爲スヘキ病院ニモ前項ノ通報ヲ爲シ且傷項策定ノ爲指定シタル病院ヲ所屬部隊ニ通報スヘシ

第十一條 歸郷療養者中休暇日終了前復職復隊死亡又ハ再ヒ陸軍病院ニ入院シタル者アルトキハ其ノ所屬部隊又ハ當該病院ヨリ直ニ之ヲ手當金支給廳ニ通報スヘシ休暇ノ延期ヲ許シタル場合亦同シ

補增

三十八年陸軍省令第十三號ヲ以

第十二條 歸郷療養者死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ死亡届書式第四號ニ市町村長ノ證明ヲ受ケ所屬部隊ニ差出スヘシ

第十三條 歸郷療養者所屬師團ノ所管外ニ居住スルトキハ其ノ手當金ノ支給ヲ居住地所管師團ノ經理部ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本人ヨリ所屬師團ノ經理部ヘ願出ヘシ

陸軍會計監督部ヨリ手當金ノ支給ヲ受クル者其ノ居住地第一師管外ナルトキ前項ニ同シ

前二項ニ依リ手當金支給廳ノ變更ヲ願出タルトキハ當該經理部又ハ陸軍會計監督部ヨリ新所管ノ經理部及所屬部隊ニ通報スヘシ

第十四條 本細則中市町村長トアルハ東京市京都市大阪市及北海道ノ區ニ在リテハ區長市制町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキモノニ該當ス

第一號書式 「用紙半紙」

手當金請求書

一金何圓也

但歸郷療養手當金何年何月分(何年何月何日ヨリ何日迄ノ分)

右請求候也

何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何

番地住

何師團(軍)何部(隊)附

官 氏 名

名

年 月 日

何師團經理部(陸軍會計監督部)

御 中

右生存者ニ相違無之候也

何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)長

官 氏 名

名

年 月 日

注 意

「支給廳ノ所在地外ニ居住ノ者ハ請求書ヲ郵送スルモ妨ケナシ此ノ場合ニ於テ金額ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ受領證書ヲ郵送スルモノトス」

「支給廳ノ所在地ニ居住ノ者ハ請求書ヲ持參シ金額引換ニ受領證書ヲ差出スモノトス」

「以下金額受領ノトキハ前二項ニ準ス」

第二號書式 「用紙半紙」

請 求 書

何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何

番地住

何師團(軍)何部(隊)附

官 氏 名

右何年何月何日歸郷療養ヲ命セラレ候處何月何日傷疾(病症)再發何月何日治療(死亡)候ニ付右加療ノ爲金何程ヲ費シ候間陸軍軍人軍屬歸郷療養者給與規則第五條ニ依リ該費御下付相成度別紙醫師證明書相添及請求候也

右

年月日

氏 名

(死亡者ニ在リテハ家督相續人又ハ遺產相續人署名捺印スヘシ)

何豫備病院(養戍病院)

御中

第三號書式 「用紙牛紙」

證明書

何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地

陸軍何兵何等卒 氏 名

右ハ何年何月何日何々ノ爲診ヲ請フニ依リ之ヲ診スルニ當時ノ症狀何々依テ何々ノ部ニ何々ノ手術(何々ノ療法)ヲ施シ爾後經過云々治療(死亡)者ハ「遂ニ何々ニ依リ何月何日死亡

ト記)セシモノニシテ既往何々ノ傷疾(症狀ハ成ル)再發シタルモノト診斷ス而シテ右治療中ニ消費シタル入院料(診斷料、藥價)ハ別紙明細書ノ如シ(別紙ハ適宜ヲ金額内詳テ詳記シ署名捺印スヘシ)前書ノ通證明候也

何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地

醫師(何病院主任醫)

氏 名

年月日

第四號書式 「用紙牛紙」

死亡届

何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地住

雷地住

何師團(軍)何部(隊)附

官 氏 名

右何年何月何日歸郷療養ヲ命セラレ候處何々ニ依リ何月何日死去致候間此段及御届候也

右遺族(親戚)

年月日

氏 名

何部 隊

御中

勅書之通相違無之候也

何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)長
年月日 氏名

●軍人軍屬公務ニヨル

傷痍疾病再發者治療

ノ件

明治二十八年十月五日
勅令第四百十號

(一部改正) 明治三十八年一〇月勅令二一六號

朕軍人軍屬公務ニ起因シタル傷痍疾病治療ノ後再發シタル者治療ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
軍人軍屬ニシテ戦闘及戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ加療治療ノ後三箇年以内ニ該傷痍疾病再發シタル者陸海軍病院ヘ入院治療ヲ出願スルトキハ特ニ許可スルコトヲ得其ノ入院中ノ諸費ハ官給トス其ノ出願ノトキ既ニ軍人軍屬ニアラスト雖前項ニ該當スル者亦同シ

●傷痍疾病再發者入院

治療出願取扱方

大正五年十二月二十二日
陸軍省令第十三號

明治二十八年勅令第四百十號ニ依リ入院治療ヲ出願スル者ノ取扱方左ノ通定ム

傷病再發ノ爲入院治療ヲ出願スル者ノ取扱方

明治二十八年勅令第四百十號ニ依リ入院治療ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書^{第一}ニ醫師ノ診斷書^{第二}ヲ添ヘ最寄衛

皮病院ニ願出ツヘシ

病院長ハ前項ノ書類其ノ他必要ノ事項ヲ調査シ入院ノ許可ヲ決シ出願書ニ所要ノ指示ヲ與ヘ其ノ都度病名、原所屬部隊、官等級氏名^ニ入院ヲ許可セザリシ者ヲ併記シ順序ヲ經テ所管長官ニ報告スヘシ

入院中ノ諸費ハ當該病院ノ支辨トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一様式

入院願

何年何月何日何々ノ際何傷ヲ受ケ(何々ノ爲何病ニ罹リ)何々衛戍病院ニ於テ治療相受ケ何年何月一旦治癒ノ處何年何月何日ヨリ該傷病)再發致候ニ付明治二十八年勅令第四百十號ニ依リ衛戍病院ニ入院治療相受度診斷書相添ヘ此段願出候也

原所屬部隊 第何師團何兵第何聯隊第何中隊
本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地
居住地 府(縣)郡(市)町(村)番地
役種官等級 氏 名

何衛戍病院長殿

第二様式

診斷書

居住地 府(縣)郡(市)町(村)番地

氏 名

- 一 病名
- 二 原因
- 三 經過
- 四 現症
- 五 療法

右ノ通ニ候也

居住地 府(縣)郡(市)町(村)番地

年月日 醫師 氏 名

●海軍軍人軍屬公務ニ
ヨル傷痍疾病再發者
治療出願方

明治二十八年十月十一日
海軍省令第三號

明治二十八年勅令第四百十號ニ依リ入院治療ヲ受ケント欲スルモノハ其願書ニ海軍醫官又ハ地方醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ最寄鎮守府病院ニ願出ヘシ
鎮守府病院ニ於テ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ病院長ハ之ヲ審査シ鎮守府司令長官ノ認可ヲ經テ入院ヲ許可ス其入院中ノ諸費ハ該病院ニ於テ支辨スルモノトス

●明治三十七七八年戰役
特別賜金賜與手續

明治三十七年六月
陸軍省告示第十九號

(一部) 改正 明治三十七年七月陸軍省告示第二二號、三八
年二月同第五號、三十九年七月同第一三號

今回ノ戰役ニ係ル特別賜金賜與手續左ノ通定ム
特別賜金賜與手續

第一條 陸軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役ニ
從事シ死歿シ死傷後及後送後死歿並内地ニ於テ戰役ニ服
シ且負傷又ハ疾病ニ罹リタルトキヨリシタル者ノ遺族
三年以内ニ死歿シタル者ナルヲ要スシタル者ノ遺族
ニハ一時限リ特別賜金ヲ給ス但シ自ラ死テ企テ死歿シ
タル者ノ遺族ニハ場合ニ依リ之ヲ給セサルコトアルヘ
シ

第二條 特別賜金ヲ受クヘキ遺族ハ陸軍軍人軍屬及雇員
傭人等死歿ノ當時ニ於テ之ト同一戸籍内ニ在ル者ニ限
ル其ノ順序左ノ如シ
真婦 子 父母 祖父母 兄弟 姉妹

前項ノ遺族ナキ場合ニ於テハ本人死歿ノ當時實家ニ在
ル實父母及死歿者家督相續人若ハ本人死歿當時ニ於ケ
ル戸主ノ順序ニ依リ特別賜金ヲ給ス

第三條 前條ニ掲クル者ニシテ剝奪公權者停止公權者又
ハ生死不明者ナルトキハ特別賜金ハ次順位ノ者ニ之ヲ
給ス但シ次順位ノ者ナキ場合ニ於テハ停止公權者及生
死不明者ニ限リ其ノ事由ノ止ミタル後之ヲ給ス

第四條 特別賜金ヲ受クヘキ遺族ハ特別賜金願書(附表
様式)ニ戸籍謄本 歸郷後死歿シタル者ノ遺族ニ在
テハ陸軍大臣ニ差出シ特別賜金證書ノ交付ヲ受クヘシ

但シ實家ニアル實父母ニ在テハ其戸籍謄本及死亡者ノ
戸籍謄本及死亡者トノ續柄ヲ明記シタル市區町村長ノ
證明書家督相續人及戸主ニ在テハ其戸籍謄本死亡者ノ
戸籍謄本及第二條規定ノ遺族及其實父母ナキコトヲ證
明シタル市區町村長ノ調書ヲ併セ添附スヘシ

第五條 特別賜金證書ノ交付ヲ受ケタル者ハ特別賜金請
求書 本書ハ特別賜金證書ヲ直接陸軍會計監督部ニ差出
スヘシ

第六條 特別賜金請求書ニハ市區町村長ヨリ其ノ正當受
領者タル證明ヲ受クヘシ
第七條 賜金ハ陸軍會計監督部ヨリ之ヲ本人ニ交付スル
モノトス

(附表様式) (一) 内ハ朱書

特別賜金願書
所屬「第何師團何兵第何聯隊第何中隊
(何々部附)」

故「陸軍何兵何等卒
(雇員傭人等ニシテ職名ア
ルモノニ在リテハ職名)
氏 名」

右者明治三十「何」年「何」月「何」日何地ニ於テ「戰死」
「傷疾ヲ受ケ」何病ニ罹リ「何」月「何」日何地何病院ニ於テ死
亡「致候間特別賜金賜與相成度戸籍謄本相添此段願上
候也

原籍地「何府何市何區何町何番地」
寄留地「何縣何郡何村何番地」
故「名 寡婦（長男、父、母、祖父、
祖母、兄、弟、姉、妹）」
明治三十「何」年「何」月「何」日 「氏 名 國」
陸軍大臣 寺 内 正 殿
備考 朱書ハ書例トス

●潜水艇勤務者ニ一時 賜金給與方

大正二年二月二十四日
海軍省令第五號
大正二年勅令第十一號ニ依ル一時賜金給與細則ハ本年二
海軍省令第四號ヲ準用ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●明治三十七八年戰役 特別賜金賜與出願期 限ノ件

明治四十五年六月七日
陸軍省告示第十一號
明治三十七八年戰役ニ從事シタル陸軍軍人軍屬雇員傭人
等ノ遺族ニ對シ明治三十七年六月陸軍省告示第十九號ニ依
リ賜與スヘキ特別賜金ハ明治四十七年十二月三十一日迄
ニ出願シタル者ニ限り之ヲ支給ス

●大正三三四年戰役特別 賜金賜與規程（陸）

大正三年十二月二十五日
陸軍省告示第二十號
今回ノ戰役ニ係ル特別賜金賜與規程左ノ通定ム
特別賜金賜與規程
第一條 陸軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役勤
務ニ從事中戰死シ又ハ自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非
スシテ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之カ爲該傷疾ヲ受ケ

若ハ疾病ニ罹リタル日ヨリ三年以内ニ死歿シタルトキハ其ノ遺族ニ死歿者特別賜金ヲ給ス但シ軍屬(文官判任以上)ノ遺族ニ死歿者特別賜金ヲ給ス但シ軍屬(文官判任以上)ノ遺族ニ死歿者特別賜金ヲ給ス但シ軍屬(文官判任以上)ノ遺族ニ死歿者特別賜金ヲ給ス

第二條 陸軍軍屬(文官判任以上)ノ遺族ニ死歿者特別賜金ヲ給ス但シ軍屬(文官判任以上)ノ遺族ニ死歿者特別賜金ヲ給ス但シ軍屬(文官判任以上)ノ遺族ニ死歿者特別賜金ヲ給ス

第三條 前二條ノ場合ニ於テ戰地以外ノ地ニ在リテ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之カ爲不具廢疾トナリ又ハ死歿シタル者ニ在リテハ其ノ原因公務ニ基因シタル者ニ限ル但シ死歿者ニシテ其ノ功績殊勳ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規、官役職工人夫扶助令又ハ砲兵工廠職工扶助令ニ依リ手當金又ハ扶助金ヲ受ケタル者又ハ受ケヘキ者並其ノ遺族ニ對シテハ重複シテ本規程ノ特別賜金ヲ給セス但シ砲兵工廠職工扶助令ニ依リ就業引續キ滿十年以上ノ者ニ限リ給スヘキ扶助金ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 遺族ト稱スルハ本人死歿當時ヨリ引續キ之ト同

一戸籍内ニ在ル寡婦、子、父母、孫、祖父母、兄弟及姉妹ヲ謂フ但シ本人ノ死歿後出生シタル嫡出ノ子ハ死歿當時其ノ家ニ在ルモノト看做ス

第六條 特別賜金ヲ受ケヘキ遺族ノ順位ハ前條ニ掲ケタル順序ニ依リ同一順位内ニ在リテハ男ハ女ニ先チ長ハ幼ニ先チ但シ死歿者ノ家督相續人ハ同順位内ニ在リテハ最先トス

第七條 遺族ナキ場合ニ於テハ特別賜金ハ本人死歿當時實家ニ在ル實父母及死歿者ノ家督相續人、本人死歿當時ニ於ケル戸主ノ順序ニ依リ第五條ノ遺族ニ給スヘキ半額ヲ給ス

第八條 特別賜金ヲ受ケヘキ順位ニ在ル者ニシテ死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者、六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレ刑期中又ハ刑ノ執行猶豫中ニ在ル者及生死不明者ナルトキハ特別賜金ハ次順位ノ者ニ之ヲ給ス但シ次順位ノ者ナキトキハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレ刑期中又ハ刑ノ執行猶豫中ニ在ル者ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタルトキ、生死不明者ハ其ノ所在分明明トナリタルトキ之ヲ給スルコトアルヘシ

第九條 本規程ニ依リ特別賜金ヲ受ケムトスル者ハ左ノ

區別ニ從ヒ書類ヲ具シ陸軍大臣ニ願出ツヘシ

死役者遺族

- 一 願書(第一書式)
- 二 戸籍謄本(死亡事項ヲ登記シアルモノ及出願當時ノモノ)
- 三 歸郷後死役シタル場合ニ在リテハ主治醫ノ作成シタル死亡診斷書並病歴書
- 四 第三條該當者ニ在リテハ傷疾疾病ノ原因ヲ認メ得ヘキ證據書類
所屬長ノ下付スルモノ
- 五 軍屬、雇員、傭人等ノ遺族ニ在リテハ身分證明書(第三書式)
所屬長ノ下付スルモノ
但シ解雇、解備後死役シタル者ニ在リテハ其ノ遺族ヨリ元所屬長ニ證明書ノ下付ヲ願出ルモノトス
不具廢疾者
- 一 願書(第二書式)
- 二 現認證書若ハ事實證明書 所屬長ノ下付スルモノ
- 三 診斷證書 軍醫ノ下付スルモノ
但シ診斷證書ハ解雇、解備ノ者ニ在リテハ其ノ際、勤務中ノ者ニ在リテハ症狀固定ノ際陸軍軍人傷疾疾病恩給等差例ニ準據シ其ノ輕重ヲ明記スヘシ
- 四 身分證明書(第三書式) 所屬長ノ下付スルモノ
- 第十條 陸軍大臣ニ於テ特別賜金ヲ給スヘキ資格アリト

認ムルトキハ本人居住地ノ地方廳ヲ經テ特別賜金證書ヲ交付ス

第十一條 特別賜金證書ノ交付ヲ受ケタル者ハ特別賜金請求書 本書ハ特別賜金證書ニ市區町村長ヨリ其ノ正當受給者タル證明ヲ受ケ直接陸軍會計監督部ニ差出スヘシ

第十二條 賜金ハ陸軍會計監督部ヨリ之ヲ本人ニ交付スルモノトス

第十三條 本規程ニ依ル特別賜金ハ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七箇年以内ニ出願セサルトキハ之ヲ受クルノ資格ヲ失フ
第一書式(用紙美濃白紙)

特別賜金願書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊(何々部附)

故陸軍何兵何等卒(軍屬)(雇員)(通譯)

氏 名

右者大正何年何月何日何地ニ於テ戰死「何々」爲傷疾ヲ受ケ(何病ニ罹リ)爲ニ何年何月何日何地何病院ニ於テ死亡」致候間大正三年陸軍省告示第二十號第一條ニ依リ特別賜金賜與相成度證據書類相添此段願上候也

原籍地何府(縣)何市區(郡)町(村)番地

寄留地何府(縣)何市區(郡)町(村)番地

故名寡婦(長男、父、母、、、、、)

大正何年何月何日

氏 名

陸軍大臣宛

第二書式(用紙美濃白紙)

特別賜金願書

(元)第何師團何兵第何聯(大)隊(何々部)附

(元)備員(通譯)(軍役夫)(水夫)

氏 名

右者大正何年何月何日何地ニ於テ何々ノ際傷痕ヲ受ケ
(何病ニ罹リ)爲ニ何年何月何日解雇(解備)相成候就テ
ハ大正三年陸軍省告示第二十號第二條ニ依リ特別賜金
賜與相成度證據書類相添此段願上候也

原籍地何府(縣)何市區(郡)町(村)番地

寄留地何府(縣)何市區(郡)町(村)番地

大正何年何月何日

氏 名

陸軍大臣宛

注意 勤續中ノ者ニ在リテハ本書式中「何年何月何日解雇(解備)相成候就テハ」チ「何々ノ用ヲ妨クルニ至リタルニ由リ」等現時機能障礙ノ状態ヲ概記スヘシ

第三書式(身分證明書書式略ス)

◎大正三四年戰役特別 賜金賜與規程(海)

大正三年十二月二十八日
海軍省告示第十四號

(一部改正)

大正四年四月海軍省告示第五號、同年一月
同第一一號

今回ノ戰役ニ關スル特別賜金賜與規程左ノ通定ス

特別賜金賜與規程

第一條 海軍軍人軍屬及履員備人等ニシテ今回ノ戰役勤務ニ從事中戰死シ又ハ自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之カ爲該傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル日ヨリ三年以内ニ死歿シタルトキハ其ノ遺族ニ死歿者特別賜金ヲ給ス但シ軍屬(文官判ヲ除ク)履員備人等ニシテ第二條ノ不具廢疾者特別賜金ヲ受ケタル者ノ遺族ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 海軍軍屬(文官判任以)履員備人等ニシテ今回ノ戰役勤務ニ從事中自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ不具廢疾トナリタル者ニハ不具廢疾者特別賜金ヲ給ス

第三條 前二條ノ場合ニ於テ戰地以外ノ地ニ在リテ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之カ爲不具殘疾トナリ又ハ死歿シタル者ニ在リテハ其ノ原因公務ニ基因シタル者ニ限ル但シ死歿者ニシテ其ノ功績殊勳ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規、官役職工人夫扶助令ニ依リ手當金或ハ扶助金ヲ受ケタル者又ハ受ケヘキ者並其ノ遺族ニ對シテハ重覆シテ本規程ノ特別賜金ヲ給セス

第五條 遺族ト稱スルハ本人死歿當時ヨリ引續キ之ト同一戸籍内ニ在ル寡婦、子、父母、孫、祖父母、兄弟及姉妹ヲ謂フ但シ本人ノ死歿後出生シタル嫡出ノ子ハ死歿當時其ノ家ニ在ルモノト看做ス

第六條 特別賜金ヲ受ケヘキ遺族ノ順位ハ前條ニ掲ケタル順序ニ依リ同一順位内ニ在リテハ男ハ女ニ先チ長ハ幼ニ先チ但シ死歿者ノ家督相續人ハ同順位内ニ在リテハ最先トス

第七條 遺族ナキ場合ニ於テハ特別賜金ハ本人死歿當時實家ニ在ル實父母及死歿者ノ家督相續人、本人死歿當時ニ於ケル戸主ノ順序ニ依リ第五條ノ遺族ニ給スヘキ半額ヲ給ス

第八條 特別賜金ヲ受ケヘキ順位ニ在ルモノニシテ死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者、六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレ刑期中又ハ刑ノ執行猶豫中ニ在ル者及生死不明者ナルトキハ特別賜金ハ次順位ノ者ニ之ヲ給ス但シ次順位ノ者ナキトキハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレ刑期中又ハ刑ノ執行猶豫中ニ在ル者ハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタルトキ、生死不明者ハ其ノ所在分明トナリタルトキ之ヲ給スルコトアルヘシ

第九條 特別賜金賜與ニ關スル具申ハ兵曹長同相當官以上、候補生及高等文官ニ在リテハ海軍省人事局長ヨリ、准士官及下士卒ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ヨリ、列任文官ニ在リテハ其ノ履歷書ノ正本ヲ海軍省人事局ニ於テ保管スルモノハ海軍省人事局長ヨリ、鎮守府ニ於テ保管スルモノハ當該鎮守府司令長官ヨリ、雇員、囑託者、傭人船員及職工等ニ在リテハ所轄長ヨリ順序ヲ經テ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十條 前條ニ依リ具申書進達以後受賞者ノ變更ヲ要シ又ハ其ノ官位勳功爵氏名住所等ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨速ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十一條 海軍大臣ニ於テ特別賜金ヲ賜與スヘキ資格ア

リト認ムルトキハ辭令書ヲ交付ス

第十二條 (削除)

第十三條 本規程ニ依ル特別賜金ハ第一條又ハ第二條ノ規程ニ依リ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七箇年以内ニ具申スルヲ要ス

軍事法令全書 畢

大正六年十二月九日印刷
大正六年十二月十二日發行

正價金壹圓貳拾錢

發行兼
編輯者

東京市下谷區上野櫻木町十八番地
市川正夫

印刷者

東京市神田區仲猿樂町十番地
平賀久吉

印刷所

東京市神田區仲猿樂町十番地
忠誠堂印刷部

東京市下谷區上野櫻木町十八番地

發行所 泰山堂



Faint, illegible text or markings on the right side of the document, possibly bleed-through from the reverse side.

終

